

2018年度

教師海外研修プログラム(タイ)

報告書



2019年(平成31年)



独立行政法人 国際協力機構
九州センター (JICA九州)

はじめに

独立行政法人国際協力機構（JICA）は、グローバル化と持続可能な社会に対応した教育のニーズが高まる中において、JICA が有する途上国の現状や国際協力活動に関する知見を教育の場に還元すると共に、JICA の関与に関わらず、広く開発教育 / 国際理解教育に資する「機会を提供」し、教員、自治体、教育委員会、NGO 等の皆様方等とのネットワークを構築し、「開発教育の担い手の拡充」を図るための支援を行うことで地域での開発教育推進のための「橋渡し役」として貢献していきたいと考えています。

本「教師海外研修」事業は、このような開発教育 / 国際理解教育での貢献につながる事業のひとつとして小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の先生方や、及び教育委員会の方々等を対象に、開発途上国がおかれている現状、日本との関係や国際協力への理解を深めるとともに、次世代を担う、児童、生徒の国際理解に役立てることを目的として実施しています。

2018 年度は「グローバルな人材を共に育む」をテーマとして、九州各県から 4 名の教員の方々が、日本が長年技術支援に取り組んでおりまた近年目覚ましい経済成長を続けているタイにおいて、7 月 30 日から 8 月 7 日までの 9 日間現地研修を行い、この研修を基に国際理解教育の授業を実施いただきました。

国内での研修では、教師海外研修を体験された前年度参加の先生との間で、今年の体験談や国際理解教育とは何かを話し合うことにより、各参加者が個別の課題を決めてタイでの視察に臨んでいただきました。

タイでの研修では、現地の小学校や日本人学校でのタイ人教師 / 日本人教師との意見交換や子どもたちとの交流、バンコクの日本企業でのタイ人従業員と共に奮闘する元 JICA 民間連携ボランティア訪問などの様々な経験を通して、タイからたくさんの学びを得ていただきました。

帰国後は、この研修への参加経験を活かし、其々の学校で授業実践に取り組まれましたので、この度、その成果を本冊子として取りまとめることになりました。

ご参加いただいた教員の方々の熱意に敬意を表するとともに、今回のご経験をさらに学校内外で活用され、グローバル化が進む世の中で、将来を担う子供たちの将来の糧としていただき、この冊子が、開発途上国を題材とした国際理解教育に関心のある方々の参考となり、教育現場での実践の一助となれば幸いです。

独立行政法人国際協力機構
九州国際センター所長 植 村 吏 香

目 次

は じ め に	1
---------------	---

I. 研 修 概 要

教 師 海 外 研 修 と は	7
2018 年 度 教 師 海 外 研 修 の 流 れ	7
参 加 者 リ ス ト	8
派 遣 前 研 修 ス ケ ジ ュ ー ル	9
現 地 研 修 ス ケ ジ ュ ー ル	11
授 業 実 践 報 告 会 ス ケ ジ ュ ー ル	12

II. 現 地 研 修 報 告 書

現 地 研 修 報 告 書 7 月 30 日	15
現 地 研 修 報 告 書 7 月 31 日	17
現 地 研 修 報 告 書 8 月 1 日	19
現 地 研 修 報 告 書 8 月 2 日	21
現 地 研 修 報 告 書 8 月 3 日	23
現 地 研 修 報 告 書 8 月 4 日	25
現 地 研 修 報 告 書 8 月 5 日	27
現 地 研 修 報 告 書 8 月 6 日	29
同 行 者 あ と が き	31

III. 授 業 実 践 報 告 書

北 原 佑 芽 華	35
二 宮 京 子	46
小 松 傑	58
徳 永 明 香	69

※ 教員、および児童／生徒の原文を活かして掲載しています。一部表現や体裁のばらつきがありますがご了承ください。

※ 過去の実践事例を、JICA 九州のホームページに掲載しています。
<http://www.jica.go.jp/kyushu/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/index.html>

I. 研 修 概 要

教師海外研修とは

国際理解教育・開発教育に関心を持つ教員を対象に、実際に開発途上国を訪問することで、開発途上国が置かれている現状や国際協力の現場、開発途上国と日本との関係に対する理解を深め、その成果を、学校現場での授業実践等を通じて、次代を担う児童・生徒の教育に役立ててもらうことを、本事業の目的として実施します。

また研修参加後は、JICA と協力し、教育現場で国際理解教育／開発教育の推進に活躍していただくことも狙いとしています。

(JICA 地球ひろば ウェブサイトより)

2018 年度 教師海外研修の流れ



2018 年度 教師海外研修 参加者リスト

■ 参加教員

	県	所 属	氏 名	担当科目
1	福 岡	久留米市立城南中学校	北 原 佑芽華	社会科
2	大 分	杵築市立八坂小学校	二 宮 京 子	全教科・ 外国語活動主任
3	熊 本	熊本県立水俣高等学校	小 松 傑	工業（機械）
4	熊 本	熊本県立黒石原支援学校	徳 永 明 香	英 語

■ 同 行 者

	所 属	氏 名
1	JICA デスク福岡国際協力推進員	森 川 大 毅

派遣前研修スケジュール

■ 7月15日（日）

※台風により当初日程の7/7-7/8より延期

時 刻	時間	内 容	担 当
13:00		受 付	
13:15	5	司会及び担当スタッフ紹介	JICA 九州 中野 職員
13:20	5	JICA 九州課長 挨拶	JICA 九州 江頭 課長
13:25	20	JICA 事業概要、教師海外研修趣旨説明	JICA 九州 中野 職員
13:45	45	事務手続き（渡航、保険、留意点他） 安全対策（安全管理部説明ビデオ上映）	JICA 九州 中野 職員
14:30	60	授業実践事例1：教師海外研修 過年度参加者 から「現地研修後の実践事例と実践のためのポイント」について 	鹿児島市立武岡小学校 祝迫真子 教諭
15:30	10	授業実践事例紹介2「SDGs ワークショップ」	JICA 九州 中野 職員
15:40	30	国際協力推進員との連携～JICA 開発教育支援事業の窓口機能 （各県別にグループ分け）推進員からの各県実践事例紹介	福岡県・熊本県・大分県 国際協力推進員
16:10	10	休 憩	
16:20	80	現地研修スケジュール詳細説明	森川大毅 国際協力推進員
17:40	5	事務連絡（明日のスケジュール等）	JICA 九州 立野 専門嘱託
17:45		終 了	

■ 7月16日（月）

時 刻	時間	内 容	担 当
9 : 30	90	◆参加者ミーティング *役割分担決定 ・現地滞在中のグループ内での役割 ・現地研修報告書（グループで担当日決め） *研修までの準備など	森川 推進員 立野 専門嘱託
11 : 00	30	参加者間の関係性を作るワークショップ 	ファシリテーター： エデュケーショナルサポート センター 松本亜樹 氏
11 : 30	30	◆開発教育とは？（レクチャー）	ファシリテーター： 松本亜樹 氏
12 : 00	60	休 憩（昼食）	
13 : 00	120	◆開発教育ワークショップ 	ファシリテーター： 松本亜樹 氏
15 : 00	30	ふりかえり	ファシリテーター： 松本亜樹 氏
15 : 30	10	今後（渡航当日と帰国後）の流れ確認 アンケート記入	JICA 九州 立野 専門嘱託 森川大毅 国際協力推進員
15 : 40	10	閉会の挨拶	JICA 九州 江頭 課長
15 : 50		解 散	

現地研修スケジュール

月 日	曜日	行 程
7月30日	月 (祝)	福岡発→バンコク着
7月31日	火	JICA タイ事務所ブリーフィング（安全対策、タイ事務所概要、視察先） クロントーイスラム（シーカー・アジア財団） 訪問 バンコク市内見学、タイ教材ストア視察、繁華街見学
8月1日	水	タイローカル小学校（Bumrungruen School） （学校説明、授業見学、学生との交流を交渉中、学校から昼食を提供） バンコク日本人小学校 （学校説明、施設見学、English-day 中学3年生）2時間
8月2日	木	レムチャバン港視察、車窓から東部経済回廊（EEC）見学 （NYK RORO Thailand Co.Ltd からご説明、港湾見学） アマタ工業団地、ブリヂストン工場視察
8月3日	金	エイビス（高齢者介護の分野で JICA 民間連携事業を展開する九州の企業） によるプロジェクト説明、活動現場の病院見学 現地学校（サイエンスハイスクール、Princess Chulabhorn's College） （学校説明、施設見学、先生との意見交換）
8月4日	土	JICA 民間連携ボランティア OB.OG 訪問 （PRONICS（THAILAND）CO., LTD） アユタヤ視察
8月5日	日	バンコク市内視察、まとめ
8月6日	月	パープルライン鉄道視察（日本人会見学） バンスー駅でレッドライン工事現場を視察 ブルーラインで JICA タイ事務所へ JICA 事務所報告、まとめ
8月7日	火	バンコク発→福岡着

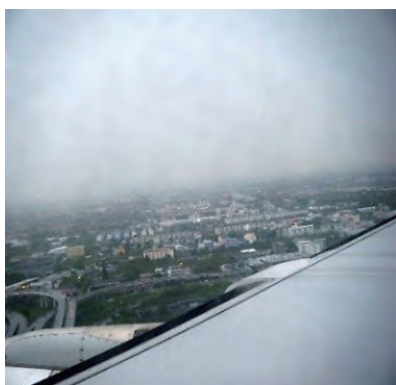
授業実践報告会スケジュール

時 間	プログラム	担 当
11:30～11:35	挨拶	JICA 九州 市民参加協力課 江頭 課長
11:35～11:40	全 体 説 明	JICA 九州 市民参加協力課 中野 職員
11:40～11:55 11:55～12:10 12:10～12:25 12:25～12:40	実践授業報告（午前中に1人当たり10分で報告、5分で質疑） 	2018 年度教師海外研修 参加者
12:40～13:40	昼 食	
13:40～15:50	実践授業報告総括 開発教育ワークショップ手法の紹介 	2018 年度教師海外研修参加者、 その他出席者 ファシリテーター： Edu 松本亜樹 氏
15:50～16:00	閉会の挨拶	JICA 九州 市民参加協力課 江頭 課長

Ⅱ. 現地研修報告書

現地研修報告書 7月30日

日付	時間	訪問先・活動	ね ら い
7/30	午 前	福岡空港国際線旅客ターミナルビル1F 集合 搭乗手続き、フライト	出国の手続きについて知る。
	午 後	第2バンコク国際空港→ホテルへ移動（車中で鯉沼次長から説明）	日本の空港との違いを知る。 タイの概況を理解する。



バンコク上空から



空港の表示



空港の外の様子

■ 今日の学び

1) 第2バンコク国際空港（スワンナプーム空港）について

・概要（JICA ホームページ）

タイには現在2つの空港があり、既存のバンコク国際空港（ドンムアン空港）ではその立地上、拡張工事に限界があるため、新しい空港が必要になった。JICA は1996年～2005年の間、この空港建設に1,992億4,300万円の円借款を貸与し、旅客及び貨物ターミナル並びに東西2本の滑走路を主要施設とする国際空港の建設を支援した。バンコクはインドシナ半島の中心に位置するため、メコン川流域諸国への玄関口としても重要とされ、東南アジアにおける国際ハブ空港としての役割が期待されており、年間約4,700万人が利用している。

用地面積：約3,200ha

滑走路：滑走路3,700m × 1本（西側）、4,000m × 1本（東側）

旅客ターミナル施設：年間4,500万人対応

貨物ターミナル施設：年間212万トン対応

・湿地帯を埋め立てて作ったこと、今後の拡張予定について

以下、拡張工事に関する記事を引用する。「国際空港運送協会（IATA）は喫緊の課題として空港施設の安全管理を挙げており、駐機場や誘導路における路面の強度不足に対し抜本的な対策が必要とされるものの、同空港を運営するタイ空港公団の対策は不十分だとし、対応を急ぐよう促した。さらに、IATAは空港整備に向け長期的な視野に立った計画が必要だとみている。第2バンコク国際空港の16年の年間旅客数は5,547万人とすでに受容能力の4,500

万人を超え、ここ数年は年平均 10% で拡大が続く。そのため、同空港の 2 期拡張工事を早急に始めるべきだと指摘した。タイの格安空港会社の拠点空港となっているドンムアン国際空港は、既存施設を効率的に活用すべきだとの見方だ。」(<https://www.sankeibiz.jp/macro/news/170629/mcb1706290500022-nl.htm> 2018.08.20 アクセス)

・空港内の表示について（写真 2 枚目）

空港内には多くの表示があり、参加者で共通して目に留まったのは礼拝所のピクトグラムであった。移動の車中に鯉沼次長から「タイの人口の 1 割はイスラム教徒であり、特に南部に多い。」との話があった。実際、空港からの車中、道路の左右に緑色の特徴的な建物（礼拝所）が見られた。

2) 空港から市街地までの幹線道路

片道 5 車線で運転手は誰しもかなりのスピードを出して走っていた。市街地は慢性的に渋滞していた。特にトヨタ車が目立って多く、トヨタタイ工場は世界でトップクラスの生産性であり、タクシーの 9 割はトヨタ車とのことであった。

3) 日本企業の進出

ヤマト運輸が進出したとの話を聞き、調べてみると「2017 年 3 月、ヤマト運輸がタイのサイアムセメントグループ（SCG）と共同で立ち上げた SCG EXPRESS がタイで宅急便サービスを本格的に開始した。」(<http://www.yamato-hd.co.jp/news/h28>, <https://www.thaichi.net/news/> アクセス 2018/08/22) とあり、「通販好きで汗をかくのが嫌いなタイ人のニーズに応えている」という鯉沼次長の話に納得した。

4) コーヒー業界、コンビニ業界の進出

朝の仕事前にコーヒーやお茶を飲む習慣がタイでも浸透しており、バンコクには多くのカフェがあり、朝から晩まで沢山の人が利用しているとのことで、特にスターバックスの勢いは大きなショッピングモールでは 1 店舗では足りないもので、2, 3 店舗入っていることも珍しくない。（<https://theyugaku.jp/791/> アクセス 2018/08/22）実際、JICA 事務所が入っている EXCHANGE TOWER の 1 階ではスターバックスが 2 店舗営業していた。

また、タイでの事業展開は今後、東南アジア諸国連合（ASEAN）のカンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナムでの事業開拓に向けたモデルになるとタイ現地法人社長は見ている。（<https://www.sankeibiz.jp/macro/news/> アクセス 2018/08/22）

他に、日本で馴染みのあるセブンイレブンやファミリーマートなどのコンビニエンスストアを多く見かけた。

■ 訪問先所感

新しい情報が急激に入り、整理できずにパニック状態であった。事前研修では、今回の研修先がなぜタイなのかを考えるよう問題提起されており、思考し続ける 9 日間になりそうだ。

文責：徳 永 明 香

現地研修報告書 7月31日

日付	時間	訪問先・活動	ね ら い
7/31	午前	JICA タイ事務所	JICA 事務所にて、タイ事務所概要や安全対策、視察先についてブリーフィングを受ける。
	午後	クロントーイスラム タイ教材ストア、繁華街見学	クロントーイスラムに住む人々の生活やシーカー・アジア財団の支援について知る。 タイの教材ストアや繁華街を見学し、バンコクに暮らす人々の生活を知る。



JICA タイ事務所からの眺め



シーカー・アジア財団の建物



スラムの路地

■ 今日の学び

JICA タイ事務所を訪問し、本研修の説明を受けた。タイと日本は関係が深く、日本の工業製品の世界戦力の拠点ともいえ、10万人の邦人がタイで生活している。タイの工業化、国内格差、教育の課題についても話していただき、豊かさと貧しさの両面を持つこの国で日本の支援、教育について学ぶ目的を再確認できた。

バンコク最大のスラムであるクロントーイスラムのなかにあるシーカー・アジア財団を訪問した。スラムに住む子どもたちの生活の向上を目的に教育面で支援を行っている。バンコクには2000カ所にもものぼるスラムがあり、5人に1人はスラム出身と言われほどである。また、スラムは都市部に隣接しており、政府の考える再開発計画と立ち退きに反対する住民の関係も知ることができた。バンコクの華やかな都市部を作り出すための工事現場など、スラムの人の労働力が必要な側面も見えた。格差の埋まらない現状のなか、周辺国からの出稼ぎ労働者もいる。十分な教育を受けないまま大人になる子どもたちもいる。貧富の差による教育の格差を感じた。

タイの繁華街では、スラムとは全く異なる風景が広がっていた。デザイン性に長けたビルが建ち並び、高架鉄道、地下鉄が張り巡らされている。数時間前とはまるで異世界にきたような感覚である。タイの教材ストアでは、日本の教材ではあまり目にしない商品が多く、教科書などを見ると、日本とは単元の順番が異なるなど、学習カリキュラムや重点の置き方が異なることがわかった。

■ 訪問先所感

JICA タイ事務所ではなぜタイで研修を行うのか、タイの東南アジアでの存在感、役割についてお話をいただき、どのような支援が必要とされているのか、なぜ支援する必要があるのか様々な視点を与えていただいた。研修を受けるにあたり、頭を柔らかくし、多くのことを吸収できるようにしていただいた。

シーカー・アジア財団では教育支援として、「図書館」「移動図書館」「学生寮」「奨学金」「保育園」の事業に取り組まれており、特に図書館は、学校を終えた子どもたちが集まる場としてのコミュニティ的役割も果たしていた。子どもたちの生活の向上を目指し、「教育の機会が子どもたちの将来を決める」と話されるスタッフの方々の真剣なまなざしが強く印象に残っている。タイのスラムと中心部の対照的な部分を見て、豊かさと貧しさが混在することを痛感し、研修初日にはあるが、一気にこれまでの固定概念や価値観を揺さぶられるようなショックを受けた。

文責：小 松 傑

現地研修報告書 8月1日

日付	時間	訪問先・活動	ね ら い
8/ 1	午前	Bumrungruen School	タイローカル小学校説明、施設授業見学、先生方や小学生との交流からタイの小学校教育について学ぶ。
	午後	バンコク日本人学校	バンコク日本人学校の学校説明、施設授業見学、先生方との交流から日本人学校の実践や課題について学ぶ。

■ 今日の学び

(午前：Bumrungruen School 視察)

お寺に付属したバンコク都が管轄するローカル小学校。タイ教育制度は原則日本と同様 6-3-3-4 制を実施していた。しかし、小学校卒業率 47.3%、中学校卒業率 31.6% というように低い。課題は都市部と地方の学力格差、教師不足である。

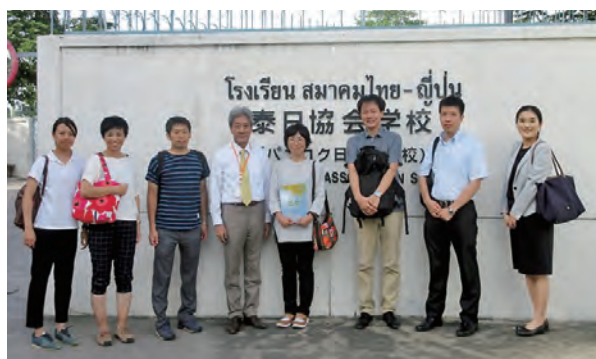
その中でも本ローカル小学校では、入学前の幼児教育から英語教育やキャリア教育のような体験活動、豊かな遊具・教具のもとでの遊びを導入し、小学校教育ではよりハイレベルなカリキュラムのもとで教育が行われていた。

子どもたちは学習に意欲的で、「笑顔でのコミュニケーション」・「生き生きと授業参加」の姿から、「学ぶ」ことへの思いの強さを実感した。



(午後：バンコク日本人学校 視察)

タイの工業化とともに、タイ在住の日本人が大幅に増加しているという。貴校は、1926 年（大正 15 年）創立。世界一歴史のある学校で、今年度の児童生徒数は 2631 名、教職員 229 名と日本人学校第一の規模校。児童生徒増加のため、校舎の増築が行われていた。



教育目標として、「徳育」「知育」「健康」「国際性」の4つを掲げ、世界に羽ばたく子どもたちの育成に務められている。そのために、英会話やタイ語学習を全学年でも実施。

■ 訪問先所感

(午前：Bumrungruen School 視察)

バンコク市内の小学校の中でも教育力の高い小学校の視察だった。英語の授業が小学校1年生から週5時間実施されている。(幼稚園からも実施。)最初の説明会で、5年生の児童が英語で私たちにプレゼンをしてくれて驚いた。英語教育のためにLPCも充実していた。LPC専門教師やネイティブ教師を充てているところからも英語教育に力をいれていることが分かった。

交流授業として40分間で日本の文化交流を行った。「折り紙をやろう」と伝え、「知ってる!」「やってみよう!」という思いを口々に発し、意欲的な印象を受けた。紙飛行機作りやけん玉、新聞紙かぶと作り、指遊び等で子ども達と活動をしたが、「できたよ!」「これでいいかな?」と進んで話し、子どもたちの明るさを肌で感じる事ができた。お土産に日本の子ども達が作ったしおりを渡し、国同士つながって過ごそうと伝えた。

学校訪問を通じて、タイも英語教育に力を入れていることが分かった。貧困の格差が激しいため、教育の格差も大きい。また、都市の教育と地域の教育には格差があり、英語教育が全体に広まっているわけではない。しかし、教育ができる環境の学校では英語教育を進めたいと考えているようだ。ALTやコンピューターを導入し、ローカル小学校でも充実を図ろうと努力していた。タイの教育の課題は「教育格差を埋めること」と「教員の資質向上」だという。今後タイは、工業が急激に発展してきたように教育の充実を図っていくだろうと予想する。

(午後：バンコク日本人学校 視察)

大規模な学校のため、綿密な連携が大切だと感じた。管理職や学年主任などはトランシーバーを持って随時連絡を取り合っている。セキュリティ管理も万全で、子どもたちが安全に安心して過ごせる体制を整えていた。登下校にも工夫があった。スクールバス利用の児童がほとんどで、民間のバス会社が運営している。一人ひとりの下校手段や下校方向を曜日ごとに把握し、無事に家まで送り届けられるよう最善の配慮がされていた。海外で生活する上で重要なことだと感じた。

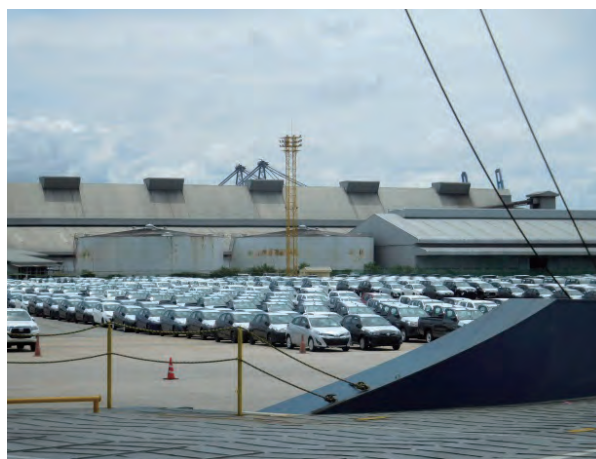
授業観察として、中学3年の英語授業を参観させていただいた。ALTの人数の多さに驚いたとともに、子ども達の積極的な授業態度にも感心させられた。1班4人で編成された班が各グループでALTからの課題を達成する活動だった。友だち同士での会話やALTとの会話から教育目標の一つである「国際性豊かな子」の姿を垣間見たようだった。

日本人学校が抱える課題として「特別支援教育」があげられた。小学校には特別支援学級はあるが、中学校にはないという。そのため、中学校に進学する前には日本に帰る御家族が多いようだ。どの子も安心して学べる環境を作るためにも「特別支援教育」の充実が不可欠である。

文責：二宮京子

現地研修報告書 8月2日

日付	時間	訪問先・活動	ね ら い
8/ 2	午前	レムチャバン港視察、 (NYK RORO Thailand Co. Ltd)	タイの中でも急速に工業化に進んだ東部臨海地域を中心に、日本とタイとの関係について学ぶ。
	午後	株式会社ブリヂストン タイ工場視察	日本の企業の進出を通して、タイでの生産活動や社会貢献について理解する。



■ 今日の学び

(午前：レムチャバン港視察)

タイでは急速に工業化が進み、特に東部臨海の工業地域開発が著しい。今回は、特に日本の企業も多く進出している東部地区にある、レムチャバン港の視察研修を、日本郵船（NYK RORO Thailand Co. Ltd）の伊藤さんに説明いただいた。

まず、なぜ現在東部臨海開発が盛んに行われているのか、その背景は3つある。①シャム湾に天然ガス田が発見されたこと、②大型商業港の開発計画がなされたこと、③タイの経済がバンコクに集中しており、この東部臨海地域が立地的にバンコクとの距離が近いこと、の3つである。これらの背景からレムチャバン港周辺のインフラ整備や工業団地化が進められている。

次にタイの輸出品について、順に1位自動車、2位パーソナルコンピューター、3位宝石類の順である。タイは東洋のデトロイトとも呼ばれるほど自動車産業が盛んであるとのことだった。これに対して輸入品については1位機械類、2位電気製品、3位原油と並ぶ。これらのタイの輸出入相手に日本は3位以内にどちらも入っており、日本との関係が深いこともうかがえる。

そして視察したレムチャバン港は、タイで製造された自動車の全自動車を輸出する港である。実際に日本郵船の輸送船の中を見せていただいた。今回見せていただいた輸送船は自動車のみを輸出する船であり、中は立体駐車場のようになっている。一隻に約7000台の自動車を積むことが可能で、約20人のスタッフで積み込む作業を行う。スタッフは自動車を運ぶ係、駐車係、固定する係、など連携をしながら1日で4000台を積み込むとのことだった。その後ヨーロッパに輸出されるとのことだった。

(午後：株式会社ブリヂストン タイ工場視察)

ブリヂストン工場は 26 カ国に 164 の工場を持つ日本の企業である。タイには 2000 年から進出し、2004 年に生産を始めた。主にバスのタイヤの生産を担っており、約 1900 人の従業員が働いている。1 日に約 8000 本のタイヤの生産を行い、欧米や中近東などへ輸出をしている。タイには多くの自動車会社が進出していることもあり、新品のタイヤづくりは 4 か所で、原材料の生産は 3 か所で行っている。

また CSR にも積極的に取り組んでおり、小学校のリノベーション事業や、交通安全講習を行っている。

■ 訪問先所感

初日の JICA 事務所で話を伺った中で、東部臨海地域の工業地域に多くの日本企業が進出しており、タイの工業化を促進させていることを知り、今回の日本郵船でのお話、実際のレムチャバン港の視察がとても楽しみであった。今回は、タイからヨーロッパに輸出するために着港していた自動車専用の輸送船の中を視察させていただいた。船の地下に始め案内され、所狭しと車が並べられていく様子を視察した。左右の車間距離は非常に狭く、車は 4 本のベルトで固定される。その作業をチームプレーでスムーズに行っているスタッフが、タイの工業の発展を支えている一つなのと思った。

実際に船員の方々が生活しているフロアを見せていただいたが、個人の部屋にはテレビもなく、電波も届かないため携帯電話も使えない、このような生活が半年間続くと聞き、世界で活躍する人たちの生活を直に感じる事ができた。また船員が交流し安らぐことができるようなところにはテレビがあり、ここで息を抜いているのだろうとも思った。

ブリヂストン工場については、創業者である石橋正二郎さんの出身地が久留米市で、私が勤めている学校も福岡県久留米市にあることもあり、とても今回視察できることに縁を感じた。久留米市にもブリヂストンの工場があり、隣の鳥栖市や近くの甘木にも工場があり、生徒にとっても身近な企業として授業でも取り扱うことがある。例えば、公民的分野では企業が果たす社会的責任について学習をする中で、CSR に積極的なブリヂストンを取り上げている。タイの工場でも一つ一つの電灯に紐が下げられ、環境保全に取り組んでいる様子が一目でわかった。

実際のタイヤの生産工程の視察では、それぞれ研修を積んだ従業員が作業を行っている姿を目の当たりにし、非常に丁寧で技術面での指導が細やかに行われていることが分かった。話によると 1900 人の従業員はすべてタイ人との話だった。その理由は、様々な国籍の従業員を雇うことにより、言語の違いから技術の指導等がうまく伝わらないなどの問題発生を防ぐためということだった。大企業はやはり人材教育についても力を入れているのだと実感した。

文責：北 原 佑芽華

現地研修報告書 8月3日

日付	時間	訪問先・活動	ね ら い
8/ 3	午前	株式会社エイビス Banphaeo hospital 視察	高齢化社会が進むタイで、どのような医療の取り組みが行われているか、企業と病院がどのような連携がされているかを学ぶ。
	午後	Princess chulabhorn science high school	タイを代表するサイエンスハイスクールの学校説明、施設見学、先生方との交流からタイの先進学校について学ぶ。

■ 今日の学び

(午前：株式会社エイビス・Banphaeo hospital 視察)

大分県大分市のソフトウェア会社が、介護支援装置「みまもりシステム」を開発。高齢化が急速に進むタイに地域福祉向上をねらいとし、病院との連携のもと本システムの導入による有効性・必要性を実証していた。日本と同様に「少子高齢化・地域の過疎化・人口の都市部集中」が問題となる中、エイビス開発「みまもりシステム」は介護をする側に大きなサポートとなっている。技術力を発展させ介護支援に貢献させながらも、一方でタイは「地域力」にも力を入れていた。公民館のような場を高齢者集いの場として、歌を歌ったり何かを作ったりと生き生きとすごせる活動の取り組み。地域の方がボランティアで高齢者の見守りを行う取り組み。さまざまな社会的課題を抱える中でも、人とのつながりを大切にするタイの福祉事業から日本が学ぶことは多い。



(午後：Princess Chulabhorn science high school 視察)

タイのトップレベルの理数科教育を行う Princess Chulabhorn science high school を訪問した。学校周辺には農地が広がり、その中に広大な敷地を持った学校がある。日本の高校よりも充実した施設や機材があり、また、常に笑顔の絶えない現地の先生方、そして一生懸命勉学に励む生徒の姿が印象的であった。先に訪問したタイのローカルの学校と比較しても、学習環境の差は想像以上のものがあった。生徒の学習意欲も高く、授業中には積極的な発言や、見学している私たちに丁寧に取り組みを伝えようとする姿があった。また、先生方も教育について探究心が高く、日本で行われている教育への関心が高かった。生徒の学ぶ姿勢、先生方の教育への思いなど、日本人も見習わなければならない部分を感じられた。



■ 訪問先所感

(午前：株式会社エイビス・Banphaeo hospital 視察)

みまもりシステムにより、在宅介護をしている人たちも安心して介護ができる一步につながる。高齢者の在宅での様子を病院が認知する手段として、LINE が使われていることに驚いた。LINE のスタンプで高齢者の様態、顔色、困りを知るという手軽さが共感を受けたようだ。今は助成のもと導入できているが、これが商品となって売れだすと、値段が高いのでなかなか普及へと広げることが難しいらしい。そのために国の補助を受けながらの展開を進めたいと考えていた。日本が技術面で支えながらも、タイから学ぶことも多い。「相互に学び合う関係が大切」というエイビスさんの言葉が印象的だった。

(午後：Princess Chulabhorn science high school 視察)

学校には様々な施設があり、日本でいう高専や大学のイメージに近い。全生徒に奨学金を与えており、学校に ATM がある。高校 3 年生は銀行業務も代行するという。全寮制の学校で放課後の時間を有効に使うため、実験・研究室のような教室も多くあった。生徒たちはそこで自分が興味を持っている分野の研究をしたり、製作を行ったりするという。校内には、世界規模の理数コンテストや研究発表会で優秀な成績を修めた証であるメダルや楯を展示する部屋もあり、その展示の数からこの学校の理数教育への取り組みの高さが伝わった。実際に私たちが見学した際も、あちらこちらの教室で生徒が研究、製作を行っていた。自ら学ぶ姿勢を身につけ、それを支援する工夫が随所に込められていた。

授業見学もさせていただき、講義型の授業ではなくアクティブラーニングを取り入れた授業が目立った。板書を写すというより、考える時間を多く設けてあり、先生はファシリテーター役として進行する形である。校長先生の方針で、「理数系は得意だが、言語系は苦手」という固定概念を崩すため、授業のほとんどが英語で行われていたことにも驚いた。また、言語・コミュニケーション能力の向上のため、交流をした日本人学生との LINE やチャットも推奨しているとのことである。新しいテクノロジーを見極めて取り入れる教育法を受け、リスク回避の日本の教育に少し危機感を覚えることもあった。

全体を通して、国は異なるが、同じ教員として共感できる部分が多かった。研究熱心な先生方が多く、授業法から教育制度まで話は広がり、質問や意見交換が尽きることはなかった。他を知り、自らを振り返る大変有意義な学校訪問となった。

文責：二宮京子（株式会社 エイビス）・小松 傑（Princess Chulabhorn science high school）

現地研修報告書 8月4日

日付	時間	訪問先・活動	ね ら い
8/ 4	午前	民間連携ボランティア OB、OG 訪問 プロニクス株式会社	中進国タイで働く日本人と交流し、企業の取り組みやタイでの人材教育について理解する。
	午後	アユタヤ視察	日本人町やアユタヤ王朝の遺跡を見学し、日本との関わりの歴史やアユタヤ王朝の歴史について学ぶ。



■ 今日の学び

(午前) プロニクス株式会社

プロニクス株式会社のタイ工場では、主に金型の成形を行っている。今回はプロニクス株式会社で働く岡本和太さん、新木千尋さんからお話を伺うことができた。岡本さんと新木さんはどちらも JICA が行っているボランティアへの参加の経験があり、現在は日本人2名とタイ人スタッフと働いている。プロニクス株式会社は、JICA が行っている民間連携ボランティア制度を活用している企業である。民間連携ボランティア制度では、社員をボランティアとして希望した途上国に派遣することができる制度であり、企業で培った経験・能力を生かして、相手国の社会・経済の発展、友好親善・相互理解の深化に貢献していくという制度である。

人材教育についての話を中心だった。まず、工場では職場の基盤づくりとして“5S”（「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「しつけ」）の指導に取り組んだ。しかし、その場ではできるが継続が難しく、なかなか浸透ができなかったという。そこで実際にベトナム工場などを視察し、タイの従業員の意識を改革していくという手法も取り組んでいた。

また、言葉の壁によってフラストレーションが溜まっていく他国での勤務ならではの困難についての話を聞くことができた。タイ人の働き方では、仕事の後の時間を大切にしている人が多く、子どもとのつながりを大切にしているため、日本のように残業という考え方が一般的ではないこと、また人とのつながりがとても強く、人との諍いも避ける傾向があるそう。そんな国民性を理解して働いている様子がわかった。

そして最後にそれぞれ日本の子どもたちに伝えてほしいことを伺った。

新木さん「今持っている夢をもっと広げてほしい。夢を持っていなくてもいい。少し手を伸ばしてみてもいい。」

岡本さん「何でもやってみること。来たものは全部する。言われたことはやってみる。

できなかったら仕方がない。何でもやってみれば、面白い方向へ転がっている。なんとかなるから、チャンスだと思って。」

(午後) アユタヤ視察

日本とタイとの関係は今現在に始まったのではなく、実は日本が江戸時代に入ってからだった。江戸幕府がキリスト教の脅威を排除しようとしていく中で、タイのアユタヤ王朝に多くの日本人が移り住んだ。アユタヤ視察では、そのころの様子を残した日本人町跡を見学することができた。特に山田長政や日系のマリー・ギマルドという菓子職人など、アユタヤ王朝で活躍した人々についての歴史について知ることができてよかった。

その他にもビルマ軍との戦争の歴史が残るワット・プラ・マハータートや、三つの棟が印象的なワット・プラシー・サンベットの視察をさせていただいた。どの建築物も菩提樹や仏像などの仏教にまつわるものが多く、とても厳かな雰囲気を楽しむことができた。

■ 訪問先所感

今回の研修では、外国で働く日本人について、さまざまな違いを理解し認め合いながら働いている様子を実際に目の当たりにすることができて、とても刺激になった。そもそも経営者として人を動かすことは難しいと思うが、それが言葉の通じる日本人ではなく、言葉の壁からコミュニケーションをなかなかスムーズに取れないタイ人ならば尚更だろうと思う。そんな従業員と信頼関係を築き、業務を円滑に進めていく中で、仕事を失敗したり、間違ってしまったときの声かけ一つ気遣い、聞き、相手を理解し、相手を認めて働くことが大切だなと思った。このことは学校現場にも言えることである。生徒を理解し信頼関係を作っていくことにより一層取り組んでいきたいと考えた。そして何より印象に残っているのは働いている岡本さんと新木さんの表情だ。岡本さんは現場をまとめていく上で沢山の困難があったと思うが、そのことに悲観せず前向きに長い目で見て働いていて、穏やかな表情だった。新木さんは笑顔を絶やさず話をしてくださり、従業員とも笑顔で話す姿が見られた。自分は日本で多忙な業務の中、彼らのように前向きに頑張っているのかと考えるきっかけにもなった。

アユタヤ遺跡はどれも厳かで、首都バンコクとはまた全く違う景色が広がっている場所ばかりだった。視察できた場所は限られていたので、また歴史を学習してアユタヤの地に足を運ぶことができたと思う。

文責：北 原 佑芽華

現地研修報告書 8月5日

日付	時間	訪問先・活動	ね ら い
8/5 (自由 行動日)	午前	水上マーケット メークロン市場	地元の人々の生活の様子や工夫を知り、異文化理解を図る。
	午後	三大寺院巡り	バンコクで歴史ある寺院巡りを通して、異文化理解や歴史について学ぶ。

■ 今日の学び

(水上マーケット)

水運が発達した場所で伝統的に行われてきた市場の一つ。タイのチャオプラヤー川のように広い水域とそれに付随する多数の運河が存在し、また自動車による陸運が未発達だった頃は、特に農産物や水産物などの運搬は水運を頼ることが多かったようだ。そのために船と船とで直接取引を行う水上の市場が発達した。今日では庶民の生活の場として、また観光客向けのスポットとして機能している。



(メークロン市場)

バンコクから南西に70km離れたサムットソンクラーム県にて開催されている地元民向け市場。魚介類や果物が都市部よりも安価で売られているため地元住民が多く通っている市場。この市場



は、「現在も使用されている鉄道の両脇」で開催されている。1日7回訪れる列車の通過を知らせるアナウンスが流れると市場の商人たちは一斉に日よけ傘をたたみ、線路に出た棚を最低限だけ両脇に引き戻して列車の通過をやり過ごす。列車が通過すると商人たちは何事もなかったように日よけの傘を開き、再び商売を始める。この動作が非常に面白いため連日多くの観光客が列車通過の瞬間を見に市場に訪れる。

(三大寺院)

「ワット・プラ・ケオ」

王宮の中にあるタイで最も格式の高い王室専用寺院。本堂にはエメラルド本尊が安置されている。敷地内には多くの像が設置されており、どれも細やかな装飾が施されていた。

「ワット・ポー」

アユタヤ朝時代に創建されたといわれるバンコクでは最も歴史のある寺院。全長49m、高さ12メートルの涅槃仏。涅槃仏の足の裏には108個の図が螺鈿細工によって描かれている。

「ワット・アルン」

トンブリー王朝の守護寺院。他の寺院と比べると落ち着いている。塔は全部で5本あるが、最も高い塔は75mある。その周りを4基が取り囲んでいる。



■ 訪問先所感

水上マーケットやメークロン市場では、地元の人々の暮らしを近くで感じることができた。日本では食べられないような食材・果物にも驚いた。地元の人たちの話す様子（口調や声の大きさ）からはエネルギーを感じた。

水上マーケットでは、川の周辺に商売の店だけでなく、生活をしている人々の家も多くあった。そのような方々にとっては水運が交通手段である。洪水等で水かさが増した時は、非常に大変だという。川と共に暮らす工夫や苦勞がたくさんあるのだろう。

三大寺院巡りでは、日本の寺院との違いを感じた。煌びやかな装飾や建造物はタイならではの。これらの寺院は地元の人も多く訪れるという。地元の人からも大切にされている寺院なので、観光客の服装の規制が厳しい。露出が多い服装やサンダル等は認められていなかった。

他の文化に触れることで、その国が大切にしていることや考え方が分かる。自分の国との違いに気づき、相手の国の良さを知ること、自分の考えも深めることができた。

文責：二 宮 京 子

現地研修報告書 8月6日

日付	時間	訪問先・活動	ね ら い
8/6	午前	パープルライン鉄道	パープルライン鉄道の視察を行い、日本の支援や現地での課題を知る。
	午後	JICA タイ事務所	この研修のまとめ、振り返りを行い、報告会で共有を図る。



パープルラインの車両基地



バンスー駅の建設中ターミナルと国鉄車両

■ 今日の学び

パープルラインは2016年8月6日に開通したバンコクの首都圏を走る高架鉄道である。私たちは日本人会の家族見学会に同行する形で、開業からちょうど2周年の日に視察を行った。日本の円借款が高架、駅、車両基地等土木工事に活用され、運営を担当するBEM社から、車両・システムとそのメンテナンスを受注している。バンコク首都圏での輸送需要増加への対応と交通渋滞の緩和を図り、温室効果ガスの削減や沿線地域の発展などに寄与している。

JICA タイ事務所にて帰国前報告会を行った。

【二宮】

「貧困が教育の格差を生む」ことを痛感した一方で、中進国タイの工業、商業の発展を目の当たりにした。地域の力や人への優しさ人間力も素晴らしい。このようなタイから日本が学ぶことは多い。「開発教育」とは日本と相手国が互いに助け合い伸び合っていく関係であること。タイの進化した「英語教育」や「人の温かさ」を現場の子どもたちに伝えていきたい。

【徳永】

「今回はなぜタイに行くのか」その答えを模索しながら、過ごした9日間であった。タイの工業化とそれに伴うインフラ整備や若いリーダー養成のための教育改革、加速する高齢社会への対策など知れば知るほど、自国に対する危機感が深まった。平和ボケ？先進国としての奢り？はもはや時代遅れであることを自覚しつつ、見聞きしたことを職場の教師集団に伝え、生徒には授業を通して世界の中の日本を伝えていきたい。

【北原】

今まで考えていた国際協力のイメージが 180 度変わる研修であった。今までは国際協力という
と一方通行のイメージが強かった。しかし、日本も他国の協力がなければ成り立たず、相互に協
力していく時代なのだとわかった。タイで活躍する日本の中小企業やタイの教育現場から沢山の
刺激をもらったので、学んだことを次は私が教室で子どもたちに還元していきたい。

【小松】

工業教育を担うものとして、日本の工業技術が海外でどのように生かされているのか知識や考
えを深めることができた。支援する側と支援される側でミスマッチがあってはいけない。一方的
な物資や施設の提供でなく、人材育成としてのノウハウや技術を伝えることの大切さ。日本人と
して、地球規模の課題に対してグローバルリーダーの役割が求められていることを伝えていき
たい。

■ 訪問先所感

パープルラインでは、日本製の車両が日本のシステムで運行されていると知り、車両や設備に
日本らしさを感じることもできた。また、きれいに保たれた整備工場や近代的な駅舎など発展の
象徴のような感覚も持った。設備が整ったタイでは、人材が不足しているということはこの現場
視察でも感じ取ることができた。業務の自動化が進み、電車自体も制御されているため電車の運
転士などは 1 年未満の経験者が多い。管理する側と現場で働く側の意識の差も大きく、離職の課
題もあるようである。鉄道事業一つにとっても、工業化と人材不足の課題を知ることができた。

JICA タイ事務所では、これまでの研修を振り返るとともに、意見発表を行った。バンコクや
東部臨海地域を中心とした急速な都市化や工業化の現状。貧富の差とそれが及ぼす教育への影響。
外から見た日本の立場と世界から求められていること。この研修の様々な視察や意見交換を経て
得ることができたこと、実際に五感で感じたことを共有することができた。世界情勢とともにう
つりゆく ODA の意味や役割、支援のあり方など、資料では学べないことを現地の人々の暮らしを
感じながら考えを深めることができた。他国を支援することは、日本の今の豊かさを維持する側
面を持っている。日本は世界の国々と支え合っているということを忘れず、日本が世界にでき
ること、世界から見た日本ということを意識して教育に携わることが重要であると感じた。自分
の中の新しい扉を開くことができた研修となった。

文責：小 松 傑

同行者あとがき

2018年度 JICA 九州教師海外研修に同行する機会を持った。ほほ笑みの国タイ。道を歩いていると、タイの人達はほほ笑んでくれる。超高層ビルとスラムが混在するバンコク。少子高齢化が進むタイ。多様性に富んだ国、どの部分を切り取っても、見方を変えれば違う表情を持つ。タイは中進国であり、後進国と先進国の両面を持った国だからこそ学ぶべき事が多くあった。価値観の揺さぶりを強烈に感じるこのタイは、教員が研修するにはうってつけの場所であった。4人の先生方の一言一句も聞き逃すまいとメモを取る姿、担当者に質問を投げかける姿からは、この機会、瞬間に一つでも多くの事を吸収し、経験しようという気迫が感じられた。

今回のプログラムは JICA タイ事務所による練りに練られた内容であり、終わってみれば、一箇所たりとも削ることのできない、又視察場所の順序を入れ替えても感じ方が変わるであろう濃密かつ充実したスケジュールであった。先生方にとって日々が発見の連続で、深い学びとなり、非常に満足度の高いものとなった。今後の教育現場での実践へと繋げていかれることを願っている。日本の未来を担う子ども達を育てる教師が、タイのように大きく変貌する世界を知っているかどうか、教育の質を左右するともいえる。改めて教師海外研修の重要性を認識できた。8日間の限られた時間の中で、私自身も多くの刺激を受け、多様性を持ったタイの魅力を存分に感じる事ができた。国際協力推進員として、先生方のここでの経験をいかに教育現場へと落とし込んでいけるかが重要であり、今後も最大限のサポートを継続的に心がけていきたい。

福岡県国際協力推進員 森 川 大 毅

Ⅲ. 授業実践報告書

アジア州 ～巨大な人口と急速に発展する経済～

北 原 佑芽華
KITAHARA YUMEKA

久留米市立城南中学校（福岡県）

担当教科：社会科

- 実践教科：社会科
- 時 間 数：6時間
- 対象学年：中学1年生
- 対象人数：204名

実施概要

【1】単元のテーマ・目標

テーマ：アジア州 ～巨大な人口と急速に発展する経済～

- ・アジア州を地域区分し、地形や気候、国々や自然環境などの基本的な特色を理解し、それぞれの地域について、人口や産業による経済の発展という視点から多角的に考察する力を身につける。

【2】単元の評価規準例

（ア）関心・意欲・態度

アジア州の地域的特色に関する関心を高め、それを意欲的に追求し、とらえようとしている。

（イ）思考・判断・表現

アジア州の地域的特色を、そこに暮らす人々の産業の違いや人口分布の違いの様子をもとに、多面的、多角的に考察し、適切に表現している。

（ウ）技 能

アジア州の地域的特色に関する様々な資料などの比較から、人口分布や産業などとの関連性を読み取り、必要な情報を適切に選択している。

（エ）知識・理解

アジア州の地域的特色を理解し、その知識を身につけている。

【3】単元設定の理由

〈教材観〉

本単元では、世界の諸地域の中でも、アジア州について学習を行う。アジア州は大きく東アジア、東南アジア、南アジア、西アジア、中央アジアから成り立っており、日本で暮らす私たちにとって最も身近な地域である。その日本も所属するアジア州について、世界の人口の約6割が生活する大きな地域であること、急速に発展している経済に注目して「巨大な人口と急速な経済発展」を主題に、アジア州について理解をさせる。現在アジア間での貿易も盛んになり、アジアの多数の国に多くの日本の企業が進出している。アジア州に属する日本に暮らす生徒たちにとって、同じアジアながらも地域によって異なる文化や生活、日本とのつながりを学習することは、国際理解教育や異文化理解の面でも大変意義があるといえる。

〈生徒観〉

本学級の生徒は、好奇心が旺盛で、自分が知らないことについて興味を持つことができる生徒が多い。一方で、視覚的な支援が必要な生徒が多く、自らが体感したことのないことについてイメージすることが難しい生徒もあり、興味はあるが実際どのようなものなのか、なぜ必要なのかというところまで考えるのに手だての工夫を要する。

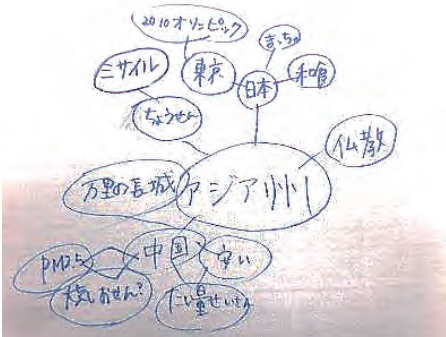
また、アンケートでは「社会科が好きですか」という問いに対し75%の生徒が「好き」と答えているのに対し、「社会科が得意ですか」という問いに対しては57%と社会科に対して好きだが得意ではないと苦手意識のある生徒もいる。社会科という教科に苦手意識のある生徒にとって、「世界のことを知るのは楽しい」と関心、学習に対する意欲を高めたい。

〈指導観〉

本単元では、アジア州の位置と雨温図などの統計資料を読み取り、生徒自身がその特徴に気付くことができるようにする。特に、急速に経済が発展している理由を、おもな特産品、輸出品に注目し既習内容と合わせて考え、生徒が自分の言葉で文章をまとめることができるようにし、言語活動の充実を図る。また実際に写真や映像を用いて、視覚的に興味を持たせ意欲的に学ぶことができるようにする。まとめでは、アジア州全体の学習内容を、生徒一人ひとりが振り返る時間を設け、アジア州の特色をまとめる。

本時では、日本からも距離的に近い東南アジアを題材に取りあげる。近年日本の多くの企業が東南アジアへ進出しており、日本人観光客も増えていて日本と東南アジアとの関係はとても深いものになりつつある。本校の学区内の高等学校の中には、東南アジアの国が修学旅行先になっているところもあり、東南アジア諸国からの日本への観光客も年々増加している。そのように、東南アジアの国々が日本の身近にある国であることに気付かせ、どのように経済発展を進めているのかを考えさせ、生徒たちの学習意欲を高めたい。

【4】展開計画（全6時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
導入	テーマ 「アジア州のイメージマップを作ろう。」 ・自分が暮らしているアジア州について知っていることを連想し、興味を持たせる。	・アジア州から連想できることを思いつく限りつなげていく。  〔導入時の生徒のイメージマップ〕	・世界地図 ・『新しい社会 地理』 ・『アクティブ地理（世界・日本）』

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	テーマ 「アジア州の自然環境」 ・世界の人口の約6割の人々が暮らすアジア州ではどのような自然環境の特色がみられるのか読み取る力をつける。	・実際に地図帳を使ってアジア州の山脈や川の位置について調べ、アジア州の国々や自然などの基本的な特色を理解する。 ・アジア州の1月と7月の降水量の変化を地図帳の主題図から読み取り、アジア州における季節風の影響について理解できるようにする。	・『新しい社会 地理』 ・『アクティブ地理 (世界・日本)』 ・『中学 白地図 世界』(とうほう)
巨大な人口を誇るアジア州はどのように経済発展を進めているのだろうか。			
2	テーマ 「地域によって異なるアジアの農業や文化」 ・アジア州の農業について知り、国ごとの特色やその背景を気候や自然環境と結びつけながら考えることができる。	・アジア州の農業について、実際の農業の様子の写真やどのようなものを食べているのかを学習する。 ・日本と同様に主食が米である地域について読み取り、なぜこの地域で米が主食として食べられているのか、モンスーンの影響や降水量の違いに着目してその特色を理解する。	・『新しい社会 地理』 ・『アクティブ地理 (世界・日本)』
3	テーマ 「経済発展を急速にとげた中国」 ・中国の急速な経済発展や生活の変化について工業化と関連付けて理解する。	・中国の経済がどのように経済を発展させてきたのかを人口、政策の視点から考える。 ・急速な経済発展の裏で、経済格差の拡大や環境問題が深刻化していることに気付かせる。	・『新しい社会 地理』 ・『アクティブ地理 (世界・日本)』 ・西日本新聞
4 本時	テーマ 「自立の道を歩む東南アジア」 ・外国とのかかわりの中で進んできた東南アジアの工業化の実態について理解する。	・東南アジア各国の工業化が、外国との貿易が進展する中で発展してきたことについて気付かせる。また日本との関わりが非常に強いことも確認する。 ・都市化の進んでいる写真と、今も残っている環境の厳しい下での暮らしの様子の写真を見せ、経済格差が課題であることに気付かせる。	・『新しい社会 地理』 ・『アクティブ地理 (世界・日本)』
5	テーマ 「産業の発展が急速に進む南アジア」 ・南アジアの文化や産業の違いについて、地域の特色と関連させながら理解する。	・数学の教育水準や英語の活用、カースト制度との関連からインドでICT関連産業が発達したことについて気付かせる。 ・他の南アジアの国々の産業の特色について写真から読み取る。	・『新しい社会 地理』 ・『アクティブ地理 (世界・日本)』 ・NHK for school 10min ボックス「アジア州」

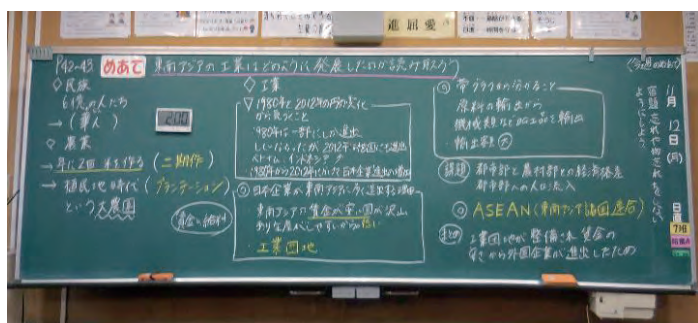
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
6	テーマ 「資源が豊富な西アジア・中央アジア」 ・西アジアや中央アジアの経済成長について資源開発と関連させながら理解する。	・原油の生産や輸出が、西アジアや中央アジアの発展に与える影響について考えさせる。	・『新しい社会 地理』 ・『アクティブ地理 (世界・日本)』

【5】本時の展開

過程・時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (7分)	1. タイで実際に撮った写真を見せて、写真がどこの国なのか考えさせ、興味を持たせる。また、鉄道や大きな駅の写真、高層ビルが立ち並ぶ背景に工業化が進んだことをおさえ、めあてを確認する。	・観光地、都市部の高層ビルが立ち並ぶ様子、スラムの写真を見せて国を考えさせる。	・パワーポイント〔資料1〕 ・タイで撮影した写真
東南アジアの工業はどのように発展してきたのか読み取ろう			
展開 (35分)	2. 東南アジアの位置や国、農業など特徴について気候について読み取る。 3. 東南アジアに進出した日本の企業数の変化のグラフを読み取り、班で説明する。 4. なぜ東南アジアに日本の企業が進出したのかの理由を賃金の面から考える。 5. タイ、マレーシア、インドネシアの1980年から2014年、2015年の輸出品がどのように変化しているのか比較して説明する。	・教科書の写真から、東南アジアでは様々な民族が生活していて、多様な文化と生活があることを読み取らせる。 ・多くの日本の企業が進出していることに気付かせる。また、タイへの進出数が大きく変化していることに注目させ、特に日本の企業が多く進出していることを写真とともに紹介する。 ・賃金面の他にも、工業団地を整備し外国の企業を誘致したことも確認する。 ・輸出品の変化だけでなく、輸出額にも注目させ、大幅に増加していることに気付かせる。	・教科書『新しい社会 地理』 ・石鹼〔資料2〕

過程・時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
まとめ (8分)	6. 東南アジアの課題について、急速に発展する都市部と農村部との経済格差があることを確認する。 7. 私たちの身の回りにあるものと ASEAN との関係について知る。	・ 始めのスライドに戻り、急速な経済の発展の裏に、都市部と農村部との貧富の差が広がっていることや、その結果都市部に人口が流入していることについて確認する。	・ 『ASEANPEDIA』のホームページから抜粋
東南アジアでは、工業団地が整備され、労働賃金の安さから外国企業が進出した。現在は日本との ASEAN 諸国との結びつきが強まっている。			

【授業実践の様子】



【授業の板書】



【班で学びあいを行う様子】

【6】 本時の振り返り

東南アジアについてあまり馴染みのない生徒も多く、「実は身の回りにある東南アジア」ということで学校の中にある東南アジアの国で作られたものについて紹介した。教室前の手洗い場にかかっている石鹸も「メイド イン マレーシア」と書かれていて身近に感じさせることができた。

東南アジアに進出した日本の企業数の変化の図については、変化について読み取ることがよくできていた。しかし、なぜ東南アジアへの進出を伸ばしているのかを考えるイメージする力は半数生徒が難しかったようである。

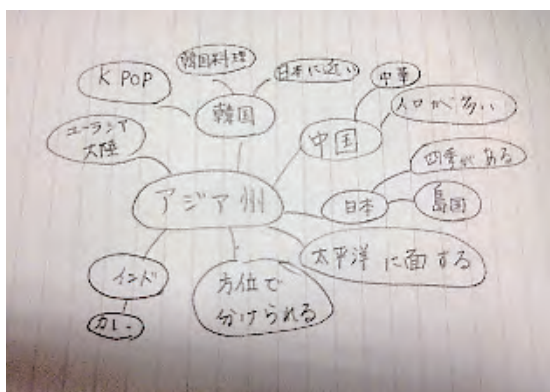
またアジアを地域区分した際に、東南アジアの学習の時間を一時間で行ったこともあり、内容量が多く、自ら読み取って表現する場面も多く設定したので、生徒もポイントが多すぎたのではないと思う。最後の ASEAN と日本との関係を、留学生や観光客が急激に増加していることを見せた際は、興味をもって話を聞くことができていた。

【7】 単元を通した児童生徒の反応 / 変化

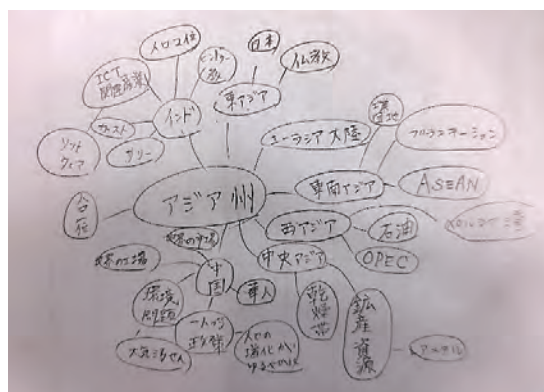
本単元では、授業の導入とアジア州の学習を終えた後のまとめの際に、イメージマップの作成を行った。大陸や州の名前については事前に学習をしていたので、地球上でどのあたりに位置しているのかは理解している。下の図はある生徒のイメージマップである。〔図 1〕は授業前に行っ

たもの、〔図2〕が授業後に行ったイメージマップである。各マップ7分ほどで作成した。

授業実践前は、日本との距離的が近い韓国や中国、人口の多いインドについてのイメージが強かったようで、多くの生徒から挙がった。またアジア州にある国について知らない生徒も多く、比較的日本から伸びていくマップが多く見られた。一方で、授業実践後のイメージマップでは、以前はほとんどみられなかった東南アジア、中央アジア、西アジアについても広がりが見られた。東南アジアからは「工業団地」「プランテーション」「ASEAN」、西アジアでは「石油」「OPEC」中央アジアでは「乾燥帯」「鉱産資源」「レアメタル」と伸ばすことができた。今後は、それぞれの地域から伸びた内容が、日本にもつながっていく大きなマップになっていくことにも自ら気づくことができるよう指導を続けていく。



〔図1 授業を行う前のイメージマップ〕



〔図2 単元終了後のイメージマップ〕

単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲について

《生徒の振り返りシートから》

- ・ 今までは世界やほかの国は自分には関係ないと思っていたけれど、自分ともたくさんかわりがあることがわかって興味が出てきました。
- ・ 学習前のイメージと違うところもあったので楽しく学習することができた。世界中に行ってみて実際に見てみたくなった。
- ・ 今までは外国のことを他人事と思っていたけれど、学習してからは外国とのつながりの深さが分かり、お互いに助け合わなければならないなと感じました。

途上国・異文化への意識の変容について

■授業前

《学習前、「アジア州ってどんなところだろう」という質問に対する生徒の反応》

- ・ 経済が発展していない国も多そう。
- ・ 外国はあまりいいところではない。
- ・ 怖いイメージ。
- ・ 日本はアジアの中でも進んでいる。

- ・ 大気汚染などの環境問題が起こっている。
- ・ アイドルなど国境を越えて活躍している。

■授 業 後

《学習後、単元の学習を通しての感想》

- ・ 悪いばかりではなさそう。
- ・ 経済活動の結びつきが深くなり、新たな関係を築き、交流できる世の中になったらいいなと思った。
- ・ 経済が発展しているところもある
- ・ 食べているものも住んでいる家も、国によって違うところがたくさんあって、平和な暮らしではない国もあり、そのような国のことも考えるようになった。
- ・ 世界にはたくさんの人がいることは知っていたけど、その人たちは大体貧しいか裕福かぐらいしか思ってなかった。だけど一つ一つの国々の中に遠くの産業だったり、特徴があり世界では自分の知らないことがたくさんあると分かった。

自己評価

■苦労した点

- ・ 教科書内容を進めていく中で、国際協力や国際問題に関する内容をどのように取り入れていくのかという点。
- ・ 限られた時間内でどのように学習を進めていくのかの計画。
- ・ 「私たちにも関係のあること」「思ったより遠い世界の話ではないんだ」と思わせるような授業展開を作る点。

■改 善 点

- ・ 国際協力をしている機関の取り組みを調べる学習や、国際協力に携わる人たちの経験談を聞く機会の計画をたてること。
- ・ 授業の導入段階で生徒に考えられる課題について考えさせて、その課題から授業を展開すること。
- ・ 多くの課題を設定するのではなく、ポイントを絞って課題を深く考えさせること。
- ・ 授業時間内でどのように時間を確保していくのか計画すること。

■成果が出た点

- ・ 実際の写真を導入に用いることで生徒たちの興味を引くことができた。
- ・ 授業の展開場面やまとめの段階で、動画や写真などの視覚的支援を行いよりイメージが付きやすいようにすることができた。
- ・ 身の回りにある外国産のものや、実は由来を外国に持つものを知ること、遠くの世界のことと思わず、より身近に感じさせることができた。

■備考

《その他の取り組み》

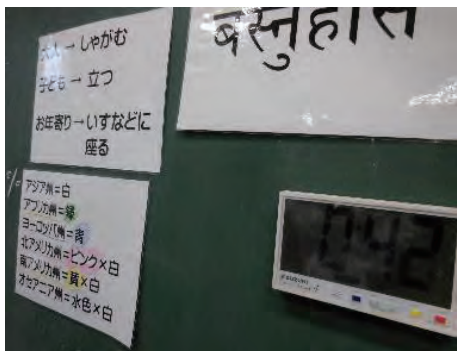
○ 道徳『世界がもし 100 人の村だったら』

社会科の授業で州や大陸の学習が終わった段階で、道徳の授業で『世界がもし 100 人の村だったら』のシミュレーション（疑似体験）を行った。導入では、「世界に今何万人の人が存在しているのか」、「今後世界の人口はどのように変わっていくのか」を考えさせた。

その後、「もしこの教室が世界の縮小版だったら、世界はどんな感じかな」と実際に一人ひとりに役割カードを配布し、カードを使い活動を教室で行った。

一人ひとり役割カードが違うこともあり、実際に自分で動いて楽しそうに活動する姿があった。州ごとに分かれる場面では「アジア州多すぎて入りません!!」「この州すごい余裕があるやん」「なんでこんなにアジア多いと?」と体感し疑問を持たせることができた。

活動後、着席させて『もし世界が 100 人の村だったら』を全員で回し読みをした。またその中から一番印象に残った段落と、今一番世界の中で早急に解決しなければならない段落を選び、その理由と授業の感想を書かせ発表させた。



〔黒板に役割カードに関する指示〕



〔全員で回し読みをしている様子〕

〈生徒の感想〉

- ・ 世界にはたくさんの人がいて、いろんな人がいることを知りました。今すぐ解決しなければならない問題がたくさんあることを知りました。そういう問題を少しでも解決できるようなことをしていきたいと思いました。
- ・ こういう風に、世界を小さくして考えると世界の問題がわかっていいと思いました。身近な問題として感じるのが大事だと思いました。
- ・ まずは自分が今できることを全力で頑張っていこうとこの話を読んで思った。これは僕たちには大きいから手助けできないと感じず、身近なことをコツコツしていけばやがて手助けになると分かった。
- ・ 今の世界の現状がより分かりやすく入ってきました。世界の貧富の差や日常的な命の危険など、国などが違うだけで生きる世界も 180 度変わっていることがわかりました。またその違いのいいところも悪いところも知ることで世界をより深く知ることができると感じました。
- ・ 知らないことばかりで、どれが今一番に解決しなければならない課題なのか選ぶのが難しかったです。けれど今生活している地球上で起きていることだと思うので、一つずつでも解決のために取り組んでいくことが大切だと思いました。

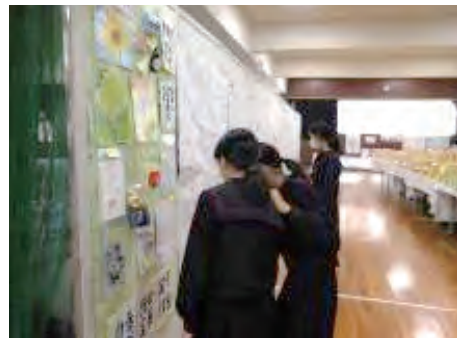
〈文化発表会での取り組み〉

1 学年全員で自分が興味のある国について調べ、10 月に行われた文化発表会の際に作成したレ

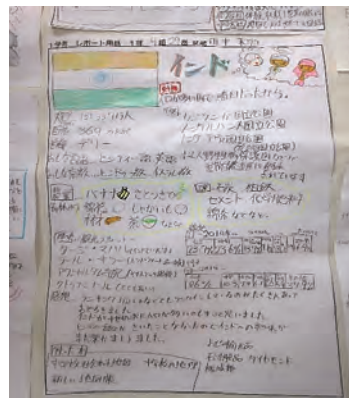
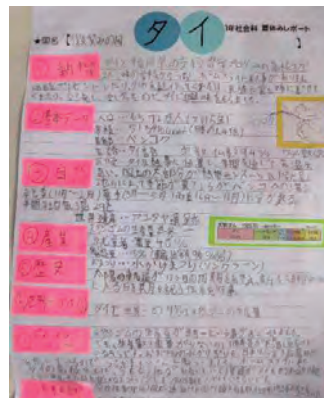
ポートを掲示し、保護者を含め全学年に見てもらう機会をもうけることができた。



〔各クラスのレポートを州ごとに掲示〕



〔鑑賞する様子〕

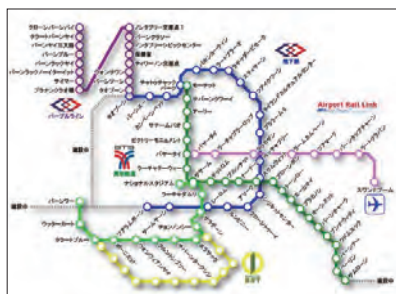


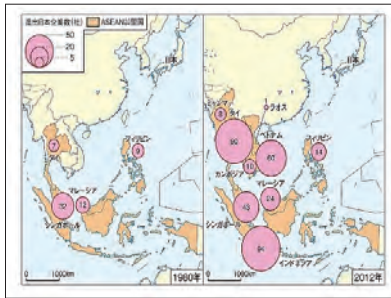
〔生徒の作成したレポートの一部（左：タイ 右：インド）〕

添付資料・参考資料

■ 添付資料：

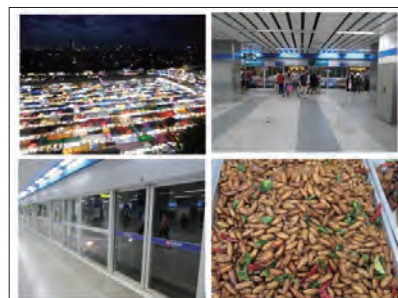
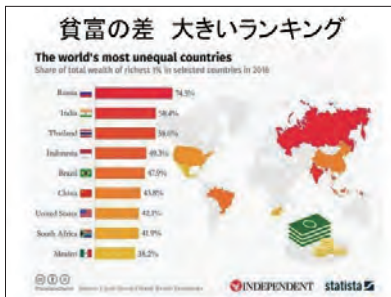
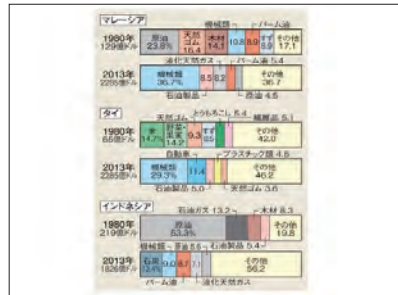
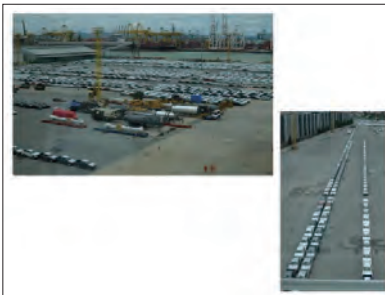
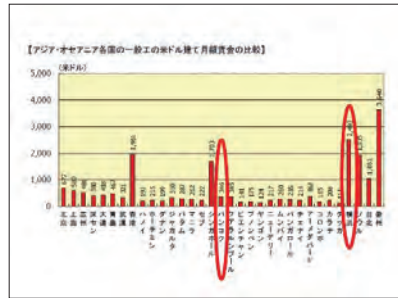
〔資料 1：本時のパワーポイント〕





【アジア各国の貿易額と日本との貿易額（2008=100）】（単位：10億ドル）

国	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
中国	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
ASEAN	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
インドネシア	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
タイ	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
マレーシア	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
シンガポール	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
フィリピン	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
インド	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
ASEAN10	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100





〔資料 2：実際に生徒たちに見せた石鹸の裏面〕



■ 参考資料：

- ・ 中学校教科書『社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土』（帝国書院）
- ・ 中学校資料集『アクティブ地理総合 世界・日本』
- ・ 帝国書院ホームページ 統計・ニュース <https://www.teikokushoin.co.jp/>
- ・ 国際機関日本アセアンセンター（東南アジア諸国連合貿易投資観光促進センター）
ASEANPEDIA <https://www.asean.or.jp/ja/>
- ・ アジア・オセアニア各国の賃金比較（2018年5月国際業務部）三菱 UFJ 銀行
- ・ INDEPENDENT <https://www.independent.co.uk/topic/statista>
- ・ MarkLines ホームページ タイの完成車メーカー工場立地マップ
https://www.marklines.com/portal_top_ja.html
- ・ タイ王国バンコクナビゲーター 電車路線図 <http://j-concierge.amazingthailand.jp/>

単元名 世界の中の日本 ～私たちにできること～ タイ文化の理解を通じて

二 宮 京 子

NINOMIYA KYOKO

杵築市立八坂小学校（大分県）

担当教科：外国語活動

●実践教科：総合的な学習の時間・道徳

●時 間 数：10 時間

●対象学年：5・6 年

●対象人数：42 名

実施概要

【1】単元のテーマ・目標

『世界の中の日本～私たちにできること～タイ文化の理解を通じて』

自分の生活と世界の様子を比べながら、互いの違いや良さ・世界の問題に気づき、自分にできることを考え取り組もうとする姿を育む。

【2】単元の評価規準例

（ア）関心・意欲・態度

世界にはさまざまな文化や生活があることに気づき、一人の人間として何ができるか考えようとする。

（イ）思考・判断・表現

それぞれの国や人々との違いを認め、同じ人間としてみんなが安心して安全に暮らすために自分には何ができるか考えることができる。

（ウ）技 能

SDGs の目標の中で、自分が持続して取り組める目標を見つけ取り組むことができる。

（エ）知識・理解

開発途上国の現状や課題を知るとともに、SDGs について理解することができる。

【3】単元設定の理由

本校の児童は、豊かな自然や地域とのつながりのもと、さまざまな自然体験や異年齢活動を行い、穏やかに学校生活を過ごしている。毎日の生活の中に多くの人々との交流はあるが、外国の方との交流は少なく、月に2回のALTとの外国語活動や年に一回の留学生交流会のみである。そのため、子どもたちの生活の中で外国の様子や世界の社会情勢に触れる機会は少ない。自分たちの生活（日本の生活）以外を知らないのが、当たり前の生活に幸せや有り難さを感じにくいのが現状だ。

そこで教師海外研修で体験したことを子どもたちに伝えることで、世界に目を向け興味をもつ一歩にしたいと考えた。同じアジアである日本とタイの生活の様子、文化、食べもの、子どもの暮らしなどを比較し体験することで、子どもたちは世界をぐっと身近に感じることができるだろう。そこから、アジア以外の国々に広げ、どのような国があるのか学習を広める。世界には開発

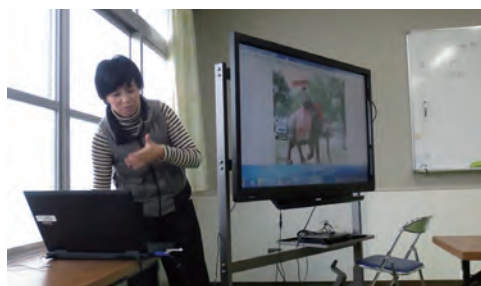
途上国を含め、いろいろな国があり、国によって生活や文化が違うことを知り認め合うとともに、自分たちとは違う環境で一生懸命生活している人々がいることを知り、自分にできることを考えさせたい。

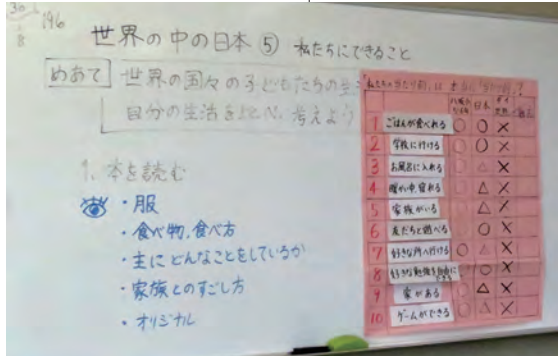
指導において、導入でワークショップ活動を取り入れ、実際に自分の立場を置き換えさせる。途端にその国の気持ちを考えるだろう。そこから世界の困りや矛盾を感じさせ学習をスタートさせる。世界には、先進国と開発途上国があり、生活の様子や経済状況が違うことに会う。開発途上国の割合の多さに気づき、自分たちの生活を見つめ直す機会へとつなげる。さらに SDGs の取り組みについても学習をし、自分にも持続してできることはないか考えさせる。本単元を通じて、世界のためにはもちろんだが、まずは身近なところから自分にできることを考えさせ、その一步一步を歩みながら世界のために何かできる人へと成長させたい。

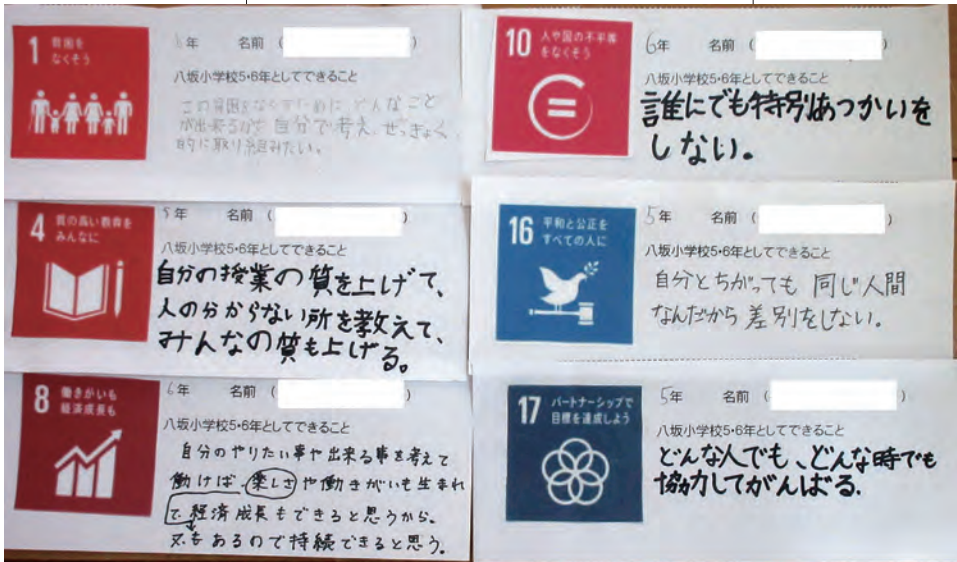
【4】展開計画（全 10 時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	『八坂小学校 5・6 年生の「当たり前ベスト 10」を決めよう』 ○自分たちの日常生活をふり返り、どんなことに当たり前さを感じているか思いを出させ、豊かな中で生活していることに気づく。	1. 自分たちの「当たり前」は何か意見を出す。 2. 八坂小学校 5・6 年生の「当たり前ベスト 10」を決める。 3. 「自分の当たり前」と「5・6 年の当たり前」を比べて感じたことを交流する。	・ ワークシート
2 ・ 3	『「世界がもし 100 人の村だったら」を体験しよう』 ○自分の立場を世界の中の誰かに設定して活動することで、日常ではなかなか関心が向きづらい世界の現状を知り、100 人の村の人々がよりよく生きていくために何が出来るか考えようとする事ができる。	1. 世界の人口や世界のことで知っていることを伝え合う。 2. 役割カードから「同じ言葉グループ」になり、全体で感じたことを交流する。 3. 役割カードから「同じ大陸グループ」になり、全体で感じたことを交流する。 4. 役割カードから「同じマークグループ」になり、全体で感じたことを交流する。 5. どうしたらみんな平等に暮らせるか考え合う。	・ 「ワークショップ版 世界がもし 100 人の村だったら第 5 版」開発教育協会 ・ ワークシート
<予想される各グループの考え> ・ 所得が 1 番多い A グループ…自分たちの力で得た富だからあげたくない。 少しずつ分け合ったら良い。 ・ 2 番目に多い B グループ…A グループに話し合いに行く。条約を作るよう提案する。 ・ 3 番目に多い C グループ…A グループに話し合いに行き、分けてもらう。 自分たちでできる方法を考える。 ・ 4 番目に多い D グループ…富を得られる方法を考える。 ・ 1 番少ない E グループ…奪いに行く。戦争を起こす。			

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
		6. 世界の中の一人の立場に立ち、その立場から感じたことを全体で交流する。	
		 	
		【アジア大陸で分かれている子どもたち】 【平等に暮らせる方法を考えるCグループ】	
4	『世界の国々の様子を知らう』 ○先進国や開発途上国がどのような位置にあるか地図上で確認することで、国々の発展が地理に関係していることや、開発途上国の多さに気づくことができる。	1. 世界196カ国の中で、先進国と開発途上国がどのような位置にあるのか地図上にシールを貼って確かめる。 2. 先進国と開発途上国の地理的特徴等についての気づきを交流する。 <予想される子どもの気づき> ・赤道の近くに開発途上国が多い。 ・アジアの多くが開発途上国だ。 ・ヨーロッパのほとんどが先進国だ。 ・分けられた大陸によって国の様子が違う。 3. 本時の授業を終えての感想をワークシートに書き、交流する。	・ 壁掛け用世界地図 ・ ワークシート ・ 色分け用シール（青：先進国 紫：開発途上国）
		 	
		【シールで色分けをして地図上で確認する子どもたち】 【色分けした世界地図】	

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
5	『タイってどんな国?』 ○自分が抱くタイへの印象と実際の写真を見比べることで、タイの文化の素晴らしさや生活の様子に気づくと共に、タイが抱える課題を知ることができる。	1. 「タイ」というとどんな国の印象がするか思いを引き出す。 ＜予想される子どものもつ印象＞ ・ 手で食事をしている。 ・ 象がたくさんいる。 ・ 貧しい暮らしをしてそう。 ・ 日本と同じような暮らしだと思う。 2. 「タイ」についてのクイズからタイについて知る。 3. タイのお金と日本のお金を比べて、それぞれの国が大切にしていること知る。 4. タイの街並みや生活、学校の様子などの写真から、日本とタイの相違を見つける。 ＜日本とタイの相違で気がついたことの予想＞ (似ている点) (違っている点) ・ 中心部(バンコク)は賑やか。 ・ 貧しさが極端。 ・ 学校がある。 ・ 制服がある。 ・ バイクが多い。 ・ スプーンを使って食事。 ・ 屋台が多い。 5. タイの生活を知り、自分たちにできることは何か考えようとする。	・ タイの写真(パワーポイント) ・ タイと日本のお金 ・ タイのお菓子 ・ ワークシート
		 【タイの生活をパワーポイントで紹介する様子】	
6	『八坂小学校5・6年生の「当たり前ベスト10」は世界共通?』 ○世界の国々の子どもたちの生活を知る活動を通じて、自分たちの「当たり前」と比べながら、	1. 一人ひとりで「世界の国々の子どもたちの生活についての本」を読み、生活の様子を知る。 2. 世界の国々の子どもたちの生活を知り、自分たちの当たり前が当てはまるか比べる。 3. 自分たちにとっての当たり前は、世界では共通ではなく、さまざまな環	・ 「世界のともだち」全36巻(発行: 偕成社) ・ 「学校へ行きたい! 世界の果てにはこんな通学路が!」第1・2期 各全4巻(発行: 六耀社)

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
	当たり前が当たり前ではないことに気づき自分たちができることは何か考えることができる。	境で生活している人たちがいることを知り、自分たちに何ができるか考える。	
	 【世界の子どもたちの生活についての本を読んでいる子どもたち】	 【自分たちと日本・世界の当たり前を比較した板書】	
7	『世界の子どもたちの生活を観てみよう』 ○世界の子どもたちの様子を映像で観ることで、前時の学習を深めることができる。	1. DVD を視聴する。 2. 分かったことや感じたことを交流する。	・ 世界地図 ・ 「世界の果ての通学路」DVD ・ ワークシート
8 本時	『大切にしたい「SDGs」の約束を考えよう』 ○世界全体で取り組んでいる「SDG s (17 の目標)」があることを知り、大切にしたい目標に気付くことで、生活に活かそうという思いをもつことができる。	1. これまでの学習をふり返る。 2. 「SDG s (持続可能な開発目標)」について知る。 3. SDGs の中で、自分にとって一番大切だと思う項目を選び、理由をもつ。 4. 自分の思いを友だちと交流し、今後自分にできることは何か考えていく。	・ ワークシート ・ 「世界のともだち」全 36 巻（発行：偕成社） ・ 「学校へ行きたい！世界の果てにはこんな通学路が！」第 1、2 期 各全 4 巻（発行：六耀社） ・ 当たり前ベスト 10 ・ 世界地図 ・ 「ピコ太郎×外務省 (SDGs) ～PPAP～」 ・ 授業で使える 10 分映像「国際協力 ③」
	 【SDGs を示した本時の板書】		

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
9	『自分が目標とする SDGs を考えよう』 ○持続できる自分の目標を決めることで、世界の一員として世界のために何かしようという思いをもつことができる。	1. 前時をふり返り、SDGs の目標を確認する。 2. 自分に何ができるか、具体的に考え、ワークシートに書く。 3. 数人の児童に自分の目標を発表する。	・ 世界地図 ・ ワークシート
  【自分の目標を考える児童の姿】  【一人ひとりが考えた自分の目標】			
10	『自分の SDGs を伝え合おう』 ○自分の考えた SDGs を交流し合うことで、いろいろな考えを知るとともに、自分の目標に向かって行動する意欲を高めることができる。	1. 自分の目標を確認する。 2. 17 の目標ごとに、1 人ひとり自分の目標を発表する。 3. どのように取り組むと持続できるか考える。 <予想される持続するための方法> ・ みんなの取り組みを掲示し、いつでも見られるようにする。 ・ 月に一回、ふり返りをする。 ・ 帰りの会でふり返りをする。	・ 世界地図 ・ ワークシート

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
		4. 今後の取り組みとそのふり返りを確認する。  【一人ひとりが考えた自分の目標を全校が見られる掲示版に掲示】	

【5】 本時の展開

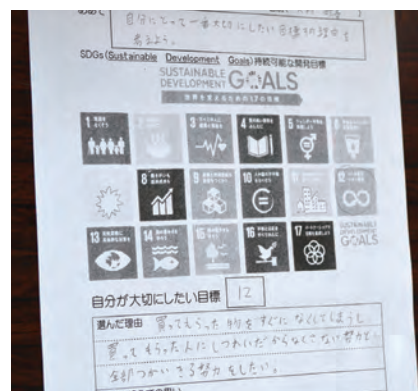
過程・時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (10分)	1. 今までの学習をふり返る。 <それぞれの国の様子> イギリス…家族みんなで楽しく暮らしている。 インド…豊かな暮らしをしている人と教育を受けられない人など差が大きい。 パレスチナ…戦争で安心して暮らせない。 フランス…自由にどこにも行ける。（遊びや旅行）	○既習学習をふり返りながら、世界には格差があることを確認する。 ・数人の児童に、前時で読んだ本から分かったことを発表させる。	・世界地図 ・当たり前ベスト 10 ・「世界のともだち」全 36 巻（発行：偕成社） ・「学校へ行きたい！世界の果てにはこんな通学路が！」第 1、2 期 各全 4 巻（発行：六耀社）
展開 (25分)	2. 「SDGs」について知る。 ・映像を観る。 ・映像から分かったことを交流する。	○「SDGs」についての映像を観て、「SDGs」とは何か知らせる。 ・映像から分かったことをまとめる。（17 の目標） Apple・Pineapple ⇒貧国をなくす Pen・Book ⇒教育	・「ピコ太郎×外務省（SDGs）～PPAP～」 ・「授業で使える 10 分映像 国際協力 ③」
	SDGs（17 の目標）の中で、自分にとって一番大切だと思う目標とその理由を交流し合おう。		

過程・時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
		○目標選びを困っている児童には、自分の生活をふり返り、今の自分の困りや課題からどの目標に取り組むとよいか一緒に考える。 ○友だち同士で大切にしたい目標を交流させる。 ○数人の児童に発表させる。	・ 掲示用「SDGs」 ・ ワークシート
	<予想される子どもたちが一番大切だと思う目標とその理由> ① 貧困をなくそう⇒食べものを残さない。 ② 飢餓をゼロに⇒食べものを残さない。 ④ 質の高い教育をみんなに⇒宿題を忘れずにする。授業に真剣に取り組む。 ⑥ 安全な水とトイレを世界に⇒節水をする。 ⑫ つくる責任 使う責任⇒最後までものを大切に使う。すぐには買わない。 ⑭ 海の豊かさを守ろう⇒ポイ捨てをしない。 ⑮ 陸の豊かさを守ろう⇒ポイ捨てをしない。気が付いたらゴミを拾う。ゴミの分別をする。		
まとめ (10分)	3. 本時の感想を書き、次からは、具体的に自分は何ができるか考えることを伝える。	○本時の感想を書かせる。 ○数人の児童に発表させる。 ○次時を予告する。	

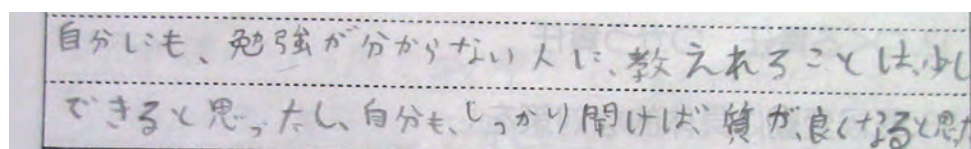
【授業実践の様子】



【国際協力③の場面を視聴する児童の姿】



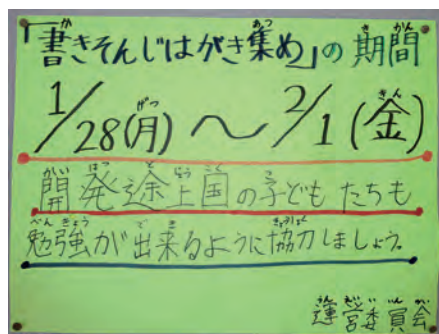
【本時のワークシート】



【SDGs 目標 4 を大切にしたい児童の理由】

単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲について

- 学級活動の中で『新年の抱負を漢字2字で表現しよう』という活動に取り組んだ際に、「貧勉」という字を選んだ児童がいた。この漢字を選んだ理由は、「世界についての学習を通じて、貧しくて勉強できない子どもたちがたくさんいることを知った。でも、日本は義務教育制度の中で、だれもが中学校まで勉強することが出来る。だから自分たちは、貧しい中で生きている人たちのことを忘れず、勉強できる環境で、しっかりと勉強して大きくなったら何か役に立つことをしたいから」と言った。本単元を終えて少し時間がたっていたことや、新年の抱負と言うこともあってのめあての中で、私としては予想外の漢字2字だったが、この児童の心の中には、ずっと貧しい国々の人々のことを思っているのだと感じた。
- 自主学習の中で、開発途上国について進んで調べ、身近なことから自分に何ができるかを書く児童がいた。
- 本単元の学習をした5・6年生から、ユネスコ「世界寺子屋運動」書き損じはがき回収運動をしようという声上がり、5・6年の児童会が中心となり、活動内容や活動方法を考えた。それらをポスターや全校集会を通じて全校に呼びかけ、学校全体の取組につなげることができた。



【12月末に全校へ呼びかけたポスター】

途上国・異文化への意識の変容について

■授業前

- A・B・H児…「開発途上国」という国があることを知らなかった。
- C・D・I児…貧しい国、かわいそうな国という印象だった。
- E児…開発が止まっている国と思っていた。
- F児…自分が暮らしている国が豊かだから、貧しい国があるなんて考えたことがなかった。
- G児…「開発途上国」という言葉を聞いたことはあったけど、興味がなかった。

児童の多くは、「自分の国以外の国」「他者」に目を向けていないという現状だった。少数の児童は「開発途上国」「発展途上国」という国があることは知っていたり聴いていたようにもあった。しかし、身近な問題としての認識はなく、他人事のように思っていた。

■授業後

- A児…自分にできることを増やし、考えて生活していきたい。
- B児…大きくなったら開発途上国に行って、現状を見て自分にできることをしたい。
- C児…開発途上国は発展するためにいろいろな取組をしていることが分かった。自分にできることをしていきたい。
- D児…タイの写真や動画から、開発途上国の場所・地域によっては、発展している所があることを知った。これからは自分にできることを考えて、役立てるように努力したい。
- E児…産業が進んでいる国もあれば、進んでいないところもあって差が激しい。人々の暮らしも差が激しかった。自分にできることをしたい。

F 児…地域によってすごく苦しんでいる人がいることが分かったから、自分にできることは一生懸命やりたい。

G 児…SDGs の目標が世界で作られていてすごいと思った。思うだけでは駄目だから自分にできることをしていく。

H 児…ペットボトルキャップ集めでも命が助かるのだから真剣に集めていきたい。

I 児…「かわいそう」で終わってはいけない。私たちに何ができるのか考えて実行していくことが必要だ。

学習を通じて、世界に目を向け視野を広げることができた。また、自分の生活もふり返り「自分にもできることがある」という意識をもつことができた。今後、世界の情勢や社会問題を随時取り上げて、子どもたちの「できることを継続してやる」気持ちを持続させるよう働きかけたい。

自己評価

■苦勞した点

- 世界の状況を身近に感じられるように仕組み、自分たちの問題でもあるという視点をもたせること。
 - ・ 身近に感じられるように、「タイの写真や動画を見せること」や「さまざまな本をじっくりと読む時間を確保すること」、「DVD や映像を視聴すること」に取り組んだ。
- 「先進国」と「開発途上国」の特徴を学習する中で、「開発途上国の人々はかわいそう。」「自分は日本の国でよかった。」など、他人事の受け取りで終わっている児童がいる。この思いを、今後、自分の問題でもあるといかに感じさせるか、学習の持続が必要である。

■改善点

- 本時（8 / 10 時間）の中で、課題に対し 2 つの観点を出したため、子どもたちの中には迷う姿が生まれてしまった。課題の精選、明確さが必要だった。
- 単元の中で、実際に開発途上国で活躍された方のお話を聞いたり出前授業へと発展させたりすると、子どもたちの意欲をより高めることができたろう。
- 単元のまとめでは、学習したことを集会や新聞等で全校へ発信できるよう設定すると、一人ひとりのめあてへの意欲が高められたと考える。
- 単元のゴールとして、SDGs の 17 の目標の中で、自分が継続してできる目標を立て、取り組み続けることとした。授業者として期待していた目標は、「相手を思いやる」目標や「友だちに優しくする」目標だった。相手を大切に思う姿が、平和に暮らす一歩になると私は考えていたからだ。しかし、約半数の児童が「12 つくる責任つかう責任」から自分にできる目標を考えた。例えば、「物を最後まで大切に使う」や「残さず食べる」だ。これらの目標は、少しの意識でクリアできそうな目標だと感じる。授業者がねらう姿にせまるために、再度世界に目を向けさせ、単元をふり返るとよかった。一方で、「⑩人や国の不平等をなくそう」から「人を特別扱いせず接する」や「⑰パートナーシップで目標を達成しよう」から「友だちと協力して過ごす」という目標も出ている。今後は、これらを紹介し広めていきたい。

■成果が出た点

- 子どもたちの意識を「世界」や「相手」へと広げることができた。自分にできることをしようという思いを多くの児童がもつことができた。
- SDGs の目標や開発途上国の現状に興味をもたせることができた。興味をもったことから子どもたちの意識にも変化が生まれた。
- 6 学年においては、本単元後の社会科「世界の人々とともに生きる」の学習の中で、世界平和や環境を守るために自分たちに何が出来るか具体的な取り組みを考えることができた。子どもたちの意欲を高め、学習を深めることが出来た。

■備 考

- 本物を見せることがいかに児童の意欲を高めるかを実感した。教師海外研修でのタイの写真や動画を見せると、「もっと知りたい!」「〇〇はどうなっているの?」等、子どもたちから質問が飛び交い、再発見したり、驚いたりしていた。また、タイのお菓子を食べたことで相手国の暮らしを身近に感じることもつながった。さらに、「お金」の視点でも、国によって何を大切にしているのか考えながら相手理解にも取り組めた。本物が教材であることで、子どもたちも高い意欲と意識で学習を進めることができた。
- SDGs17 の目標の中で、自分が持続していく目標を考えた際に、「⑧働きがいも 経済成長も」から「自分の仕事や勉強に一生懸命に取り組む。そうすることで楽しくやりがいも生まれるから」と考えた児童がいた。子どもの思いに感心したとともに、豊かな発想に感動した。授業者が伝えたいこと以上のことを子どもたちが感じ取ったり反応したりすることに授業の魅力があると思った。

添付資料・参考資料

■参考資料：

- ワークショップ版「世界がもし 100 人の村だったら」第 5 版 / 発行 開発教育協会
- 「学校へ行きたい! 世界の果てにはこんな通学路が!」第 1、2 期 各全 4 巻 / 出版社 六耀社
- 「世界のともだち」全 36 巻 / 出版社 偕成社
- 「すごいね! みんなの通学路」/ 出版社 西村書店
- 「世界の果ての通学路」DVD
- 「ピコ太郎×外務省 (SDGs) ～ PPAP ～」外務省
- 「授業で使える 10 分映像集 交際協力③」JICA2017 年
- 「キッズ外務省」www.mofa.go.jp/mofaj/kids/index.html
- 認定 NPO 法人アジア教育友好協会 www.nippon-aeifa.org
- 外務省「探検しよう! みんなの地球」
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sanka/kyouiku/kaihatsu/chikyu/world_info/index.html
- 外務省 タイ王国 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/thailand/index.html>
- 世界寺子屋運動 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 <http://unesco.or.jp/terakoya/>

異文化理解を通して体験の重要性を知る

小 松 傑

KOMATSU SUGURU

県立水俣高等学校（熊本県）

担当教科：工業（機械）

●実践教科：総合的な学習の時間

●時 間 数：4 時間

●対象学年：2 年生

●対象人数：26 名

実施概要

【1】単元のテーマ・目標

グローバル化が進む現在、工業は一国だけの技術力で成り立つものではなく、世界各国の技術協力や競争により発展を続けている。日本のメーカーに就職しても、海外の工場へ転勤することも増加傾向にある。日本の技術力がますます世界各国で必要とされているなか、日本で工業を学ぶ意義や、自ら身につけた技術が世界から必要とされていることを知れば、高い意識を持って学問と向き合う大きなきっかけとなる。現行の高等学校学習指導要領にも、「現代社会における工業の意義や役割を理解させる」とあり、このことを指導することが求められている。グローバル化する工業については、各校で熱心に指導をしている現状がある。本校でも世界情勢等を踏まえて就職先を検討するよう繰り返し指導している。だが、知識注入の指導が中心であり、生徒がどれだけ実感しているかは指導者として課題を感じていた。

本単元では、私自身の教師海外研修での体験をふまえ、生徒にグローバル化する現代社会において、活躍する工業人としての基礎を生徒に確立させることを目標とした。授業を構想するにあたっては、以下の段階を設定した。本単元では、①および②の段階から、③段階へ生徒が変容することをねらいとした。

- ①：将来働いていくうえで、国外に目を向ける必要性を感じることができない。
- ②：将来働いていくうえで、国外に目を向ける必要性を感じることができる。
- ③：②に加えて、実際に体験することの重要性を感じることができる。
- ④：③に加えて、具体的な工業分野に関して、日本と海外を比較、検討することができる。

【2】単元の評価規準例

（ア）関心・意欲・態度

- ・ 海外の国々（主にタイや台湾）について知っていることや考えを聞き入れ、発信することができる。
- ・ グループワークに積極的に参加し、コミュニケーションを取ることができる。

（イ）思考・判断・表現

- ・ 日本と海外を比較し、新たな疑問を持つことができる。

(ウ) 技 能

- ・ 自分自身の抱いた疑問を調べ、まとめて発表することができる。

(エ) 知識・理解

- ・ 他国と日本の違いから、日本の抱える課題や自分自身が学ぶべきことを知り、行動に移すことができる。

【3】単元設定の理由

生徒観：

該当生徒は、機械科に所属し日頃から実習や専門科目について学んでいる。就職を希望する生徒が26名中26名全員であり、主に工業系の就職を希望している。就職試験を来年度に控え、12月には三者面談を実施し、進路意識を深めている段階にある。事前アンケートの結果では、①段階の生徒は約50%、②段階の生徒は約50%、③段階および④段階は0%であった。本校は文部科学省よりSGH（スーパーグローバルハイスクール）の指定を受けており、これまでも海外の学生との交流や、実際に海外研修に行った生徒の発表などを聞く機会が多いことが理由と考えられる。SGHでは『環境首都水俣』に学ぶ水高生から世界への「いのち」の発信』というメインテーマのなかで、同じ水銀被害にあった世界の国々についての研究や世界の環境問題に目を向けた探究活動を行っている。また、本単元の実施後の12月に台湾修学旅行を控えている。

海外の情報と触れる機会が多い一方で、発表や報告を聞くだけという受け身の生徒も多い。調べた内容や情報を受け入れるだけで、素晴らしい内容でもそれらをきっかけに日頃の活動に生かしていない部分もある。海外研修に行く生徒ももちろんいるが、後述の修学旅行を除いては一部に限られており、本単元を実施したクラスには該当者はいない。事前に自分の考えやイメージを整理して、実際に体験することで様々なギャップを感じ取ることができるような③段階の生徒はほとんどいないのが現状である。

教材観：

本単元では、②段階から③段階へと生徒が変容するために、教材として次の3つの柱を準備した。柱①では、差異があることの意味を体験的に感じさせつつ、柱②で、海外での差異を感じることがいかに重要かを私自身の体験を手本として示し、柱③では、海外での差異を体験する主体が生徒自身であることの意識付けを可能とする。柱①から柱③までの教材を一貫して扱うことに意義があると考え。なぜなら海外での「体験の重要性」を生徒が学ぶにあたって、生徒自身が学ぶ必要性を感じるのに適しているためである。

柱①：バーンガ（トランプゲーム）

この教材ではトランプゲームで、ルールの違いや、言葉が使えない状況でどうやってゲームを進めていくかを体験できるゲームである。身近なトランプゲームとして、生徒も取り組みやすい。教師の言葉で伝えるよりも確実に印象に残る、異文化シミュレーションの役割を期待できる。

柱②：指導者による講話

私自身が経験した教師海外研修について、(1) 実際に体験したタイと日本の違い (2) 世界の工業化と日本の役割に焦点をあてた生徒向けの講話である。(1) では、タイと日本の関係性を知ること、今までなじみのなかった海外の国について知るきっかけを与えられる。タイ研修の報告では、なるべく生徒のイメージと異なる写真や動画を教材として用

い、イメージとのギャップを感じさせることができる。(2)では、特に工業系の視点を重視し、工業化しているタイの状況から、アジア各国の様子や世界での日本の役割について考えさせるきっかけとなる。

柱③：感想文（修学旅行での視点を持たせた体験活動）

本校では、第2学年の全員を対象に12月に海外修学旅行が企画されている。柱①や柱②で生じた新たな疑問や価値観を揺さぶられる経験をもとに、修学旅行で訪れる台湾についても考えやイメージを深めるにはどうすればよいか。相川（2007）によれば、海外を訪れる修学旅行について、「国際理解の「内容」と旅行プログラム中の「きっかけ」」について、「地球規模の問題について知りたい」という「内容」を深める「きっかけ」となったのは、「講演」または「旅行中になし」というアンケート結果があり、視点を持たせたうえで、修学旅行中の諸行事を体験させることが望ましいとわかる。これをふまえ、修学旅行において特定の「視点」を生徒に持たせることが重要だと考えた。柱①、柱②実施後および修学旅行後に言語や文化の違いに着目させたうえで感想文を記述させることで、生徒に視点を持たせたうえで修学旅行において充実した体験活動（フィールドリサーチ）を実現できる。

指導観：

「知識」だけでは分からない「体験」の意義を、私がこの研修を通して感じ取ったように、生徒自身にも「体験」を通して、グローバル化を生もの「グローバル化」として感じ取り、将来のヴィジョンを持ってほしい。これが本単元における指導の核である。

本単元を実施するクラスには、海外に渡航した経験がある生徒はいない。2年生全員が参加する台湾での海外修学旅行の機会を有効活用したい。具体的には、ただ単に海外の文化や風土を感じるだけでなく、海外で「体験の重要性」を実感させ、自分が働くことと結びつけられる経験をさせたい。

本単元の指導では、まず、私自身が経験した「教師海外研修」を十分に生かしつつ、教材感で述べた三つの柱を用いながら異文化を学ぶ必要性を生徒に感じさせたい。次に海外（台湾）へ持つイメージや【仮説】を周囲に伝え、修学旅行先で【検証】していくフィールドリサーチを行う。その後、発表の機会を設け、それぞれの調べた内容や得た情報の共有を図る。

日々の授業を通して知識を深め技術を高めることはできる。だが、上記の指導手順を踏むのは、【仮説】をたて【検証】することを意識し、この機会に海外を実際に体験するからこそ、世界における日本の役割や日本の高校生が身につけるべき力を、より確実に生徒に身につけられると考えたためである。特に、工業的な視点を持って世界を見ることで、現在学んでいる内容がどのような場面で活用されているのか、世界ではどのように扱われているのかを学ぶことで日々の学習意欲向上に繋げたい。

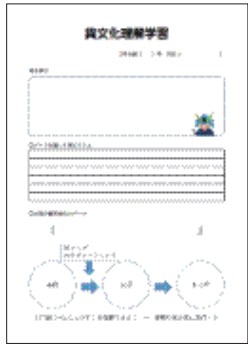
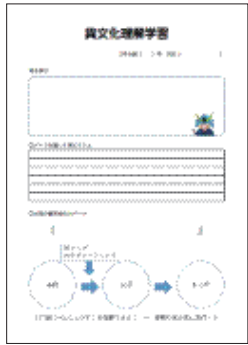
目標でも述べた通り、本単元では、最終的な目標として④段階を見据えつつ、生徒観をふまえ、学級全員が③段階へ到達することを目指す。

【4】展開計画（全 4 時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1 本時	【異文化を体験する】 ・ 異文化シミュレーション ・ タイ研修の報告 ・ 修学旅行の前に	・ 事前アンケートに回答する。 ・ トランプゲーム（バーンガ）を行う。知らず知らずのうちに自分が今まで身につけていた「常識」「ルール」が通用しない異文化におかれた時、どのような気持ちになり、どのような混乱が生じ、どのように対処（適応）していくのかを体験する。 ・ タイ研修の報告から、自分が海外に持つイメージをクラスに発信し、報告を聞いて、タイの実情を知り、イメージと実際のギャップを共有する。 ・ 修学旅行では実際に海外に行き、目で見て肌で感じることができる。そのとき生まれるギャップは強い印象となり、興味関心を深めることができる。視点を持たせた上で感想文を書き、イメージを持たせ、「体験の重要性」に気付く。	・ 事前アンケート ・ トランプ ・ ワークシート 1 ・ タイ研修の報告スライド ・ ワークシート 2
2	【台湾を知る。日本を知る。】 ・ 日本と台湾 ・ 工業支援という視点からの台湾 ・ フィールドリサーチ	・ 台湾の歴史と日本との関係についてスライドで学習する。また、修学旅行の訪問先についても概要を学ぶ。 ・ 工業先進国である日本と台湾の関係性に注目し、世界との競争や政府開発援助（ODA）について学ぶ。 ・ 「台湾で活躍する日本を探せ！」というテーマで修学旅行中に注目してほしい点と、生徒それぞれが抱いた課題をワークシートにまとめる。	・ スライド ・ スライド  ・ スライド ・ ワークシート
3	【台湾修学旅行】 （台北市、台南市、高雄市） 12 月 11 日～ 15 日	【日程】 高雄私立中山高級工商学校 学校交流 JNC 株式会社 企業訪問 赤崁楼 見学 龍山寺 見学	・ 修学旅行しおり ・ ワークシート

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
		九份 散策 B & S プログラム (台湾の大学生と一緒に自主研修) 忠烈祠 見学 故宮博物院 見学 饒河夜市 見学	
4	【修学旅行を終えて】 ・ フィールドリサーチ結果報告 ・ 自分自身の変化に気付く	・ 修学旅行前に作成した仮説をもとに、実際どのような結果がえられたか、仮説と実証を発表する。 ・ 修学旅行を終えて、感想を発表し事後アンケートに回答する。なぜ国際理解が必要なのか、これから学んでいくべきことについて考えを深める。	・ ワークシート ・ 感想用紙 ・ 事後アンケート

【5】本時の展開

過程・時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (20分)	事前アンケートの実施 「バーンガ」（トランプゲーム）で「異文化シミュレーション」を行う。 ※バーンガについて ・ 話してはいけない。 ・ Aグループでは数字が大きいカードを出した方が勝ち。 ・ Bグループでは数字が小さいカードを出した方が勝ち。	・ 国際理解や海外への興味関心についてアンケートを実施する。 ・ 自分が今まで身につけていた「常識」「ルール」が通用しない異文化におかれた時、どのような気持ちになり、どのような混乱が生じ、どのように対処（適応）していくのかを、簡単なトランプゲームを通して疑似体験し、そのときの気持ちなど共有させる。	事前アンケート ・ トランプ ・ ルールシート ・ ワークシート「異文化理解学習」 
展開 (25分)	・ AとBでメンバー交換する。 タイ研修の報告（講話） ・ タイの都市部、スラム街 ・ 環境問題対策の様子 ・ 工業地帯の状況 ・ 歴史的な観光名所の様子 ・ 政府開発援助の例	・ まず始めに、タイについて生徒たちが持っているイメージを発表させる。 ・ タイ研修をまとめたスライドを通して、イメージしているタイと実際のタイの様子のギャップを感じさせる。ギャップの大きさが海外への興味関心へ繋がるようにする。	・ パワーポイントスライド 

過程・時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
まとめ (5分)	※講話の際の留意点 ・ギャップを特に感じる点に注目して話をする。 ・生徒の意見を引き出しつつ、話を進めていくように留意する。 修学旅行の前に ・修学旅行で訪れる台湾のイメージをワークシートに書く。 ※ワークシートの留意点 ・全体を示し、一連の学習である事を強調する。 ・イメージと実際にはギャップがあることを共通理解する。	・修学旅行を充実した研修にするため、どのような点に着目するか、どのような視点を持つと良いか考えさせる。 ・タイの学習で感じたギャップをもとに、台湾でもイメージと実際のギャップを興味関心に結びつけるようにする。 ・次時には、「台湾で活躍する日本を探索」という項目で修学旅行における「視点」をもつことを予告し、事前学習を促す。	・ワークシート「異文化理解学習」 ・ワークシート「Before and After School Trip」 

【授業実践の様子】



導入で行った、異文化シミュレーションのトランプゲームの様子。

（生徒の反応）

メンバー交換が行われたあとの生徒の反応は新鮮だった。事前に何があっても話さないことを徹底して指導したことで、ルールを守りながら必死に自分の意図を伝えようとする姿が見られた。ゲーム終了後、会話を解禁すると、自分の考えを伝えたり、他人の意見を受け入れたり、ルールの確認を行ったりと、自ずと自分を表現し、他を受け入れるような活動が始まった。



ワークシートへタイ研修の報告での気づきや、台湾のイメージなどを記入している様子。

(生徒の反応)

「自分自身にも指導者のような気付きを持つことができるのではないか。」という旨のアンケート結果もあり、真剣な雰囲気イメージを考える姿が印象的だった。

【6】 本時の振り返り

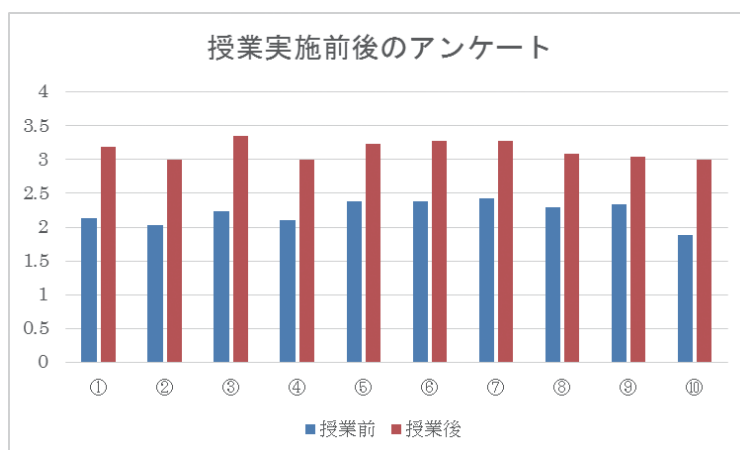
- ・ 事前に教室にはタイの地図やお土産等を掲示して、興味を引くよう工夫した。
- ・ 最初のシミュレーションでルールの違いの受入方や自分や相手がどのような気持ちになるか体験できた。コミュニケーションの必要性に気付かされる生徒も多かったようである。
- ・ タイに対しては途上国のイメージや負のイメージが多く、報告を聞いていく中で、タイの工業化や都市部の様子を見て、生徒たちは大変興味を持った。ギャップを強く感じていた。
- ・ 台湾では実際に現地に行って体験することになる。「体験の重要性」をより確実に学ぶため、研修時にどこに注目するか、また、自分自身にイメージがあることを自覚させることができた。このことで修学旅行時におけるフィールドリサーチをより充実させる手立てとなった。

【7】 単元を通した児童生徒の反応 / 変化

この単元では、国際交流を通して、世界情勢の知識、コミュニケーション能力、積極的な学習態度を育むことを意識しつつ、先の目標に述べたように①段階および②段階から③段階へと生徒が変容することをねらいにしている。アンケートの内容結果は下記に示す通りで、全項目で「4：よくあてはまる」「3：ややあてはまる」と回答した生徒が増え、本単元が一定の効果があつたことを示している。

○ 授業実施前と実施後のアンケートの結果

- 1：全くあてはまらない
- 2：あまりあてはまらない
- 3：ややあてはまる
- 4：よくあてはまる



<質問項目>

- ① 国際理解について興味・関心がある
- ② 国外の環境問題や課題について興味・関心がある。
- ③ 海外について詳しく学びたい。
- ④ 1つの事柄に対し、いろいろな考え方ができる。
- ⑤ 必要な情報を収集・整理して、課題解決に活用できる。
- ⑥ 自分の考えを明確に伝えるために、英語等の学習の必要性がある。
- ⑦ 専門的知識・技術を学ぼうとする意識がある。
- ⑧ 他者の意見を正しく批判し、批判に基づいて自分の意見を主張できる。
- ⑨ 考えや意見をわかりやすく他者に伝えることができる。
- ⑩ 将来、仕事で国際的に活躍したいという意識がある。

単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲について

<生徒の感想文より一部抜粋>

- ・ 初めて海外に行き、レストランやお店などで言葉の違う人々とコミュニケーションをとる際にとても困った。英語に対して真剣に学ばなければならないと感じた。
- ・ 実際に台湾に行き、台湾の文化や生活の仕方などに触れてみることで、台湾の良さはもちろん、日本の良さや素晴らしさを改めて感じる事ができた。
- ・ 台湾でも日本のメーカーの製品が多く、海外で日本の企業が活躍していることが分かった。また、グローバル化についても自分自身が考えていた以上に進んでいて、世界情勢について学ぶ必要性を感じた。
- ・ 日本で使っている工作機械は海外でも使用されていて、いま学んでいることがこれから様々な場面で役に立つように感じた。また、日本の技術の高さを褒めてくれた人もいたので、私自身も精一杯勉強して、知識や技術を高め、世界に通用できるようになりたい。
- ・ いままでは海外に行くのは嫌という思いが大きかったが、タイの様子や修学旅行を経験して、将来は海外の工場で技術指導をして働くのも良いなと思った。

途上国・異文化への意識の変容について

■授業前

- ・ 台湾に修学旅行に行くことに対して、衛生面や食事の問題で不安を抱える生徒が多く、修学旅行に対しても消極的な姿勢が目立っていた。
- ・ アジアの各国と比較して、日本は工業化も進み、先進国としてリードしていると考えている生徒が多く、一方で、アジア諸国に対しては途上国で都市部でも高層ビルや交通インフラもままならないと考えている生徒が多かった。

■授業後

- ・ほとんどの生徒が修学旅行に満足しており、もう一度行きたいという感想も多かった。また、予想していたよりも都市部が発展していることに衝撃を受けている生徒も多かった。
- ・自主研修や学校交流を通して、台湾の学生が母国語以外に日本語や英語を使ってコミュニケーションすることを目の当たりにし、英語を学ぶ必要性を感じていた。また、なんとなくでしかイメージしていなかったグローバル化についても、台湾で活躍する日系企業やなじみのあるチェーン店を目の当たりにして、グローバル化が進んでいることや広がりを感じた。
- ・学校交流の交流校にも工業科があり、実習工場や工作機械の見学もさせていただいた。そこには日頃自分たちが使用している機械も多くあった。また、現地の工場見学では、日本よりも整っているのではないかと感じるほどの施設でものづくりが行われており、生徒も大変興味深そうであった。修学旅行後は生徒同士で修学旅行の際に見た工場や機械の話をする姿を良く目にした。

自己評価

■苦勞した点

- ・授業時間が限られており、教師から生徒に伝える一方通行な活動が多かった。もう少しゆとりをもって、グループワークや調べ学習など取り入れると、より具体的な課題を解決する学習活動になると感じた。
- ・一人ひとりのイメージを発表させる際に、他のクラスメイトの意見を参考にするなど、積極的な姿勢が少し弱かったように感じた。考えていることを自分の言葉で発表することも訓練していきたい。

■改善点

- ・本校にはALTや海外研修に行った生徒も在籍しているため、ALTの母国や生徒の研修先の国についても話をしてもらえる機会を設けると、また違った視点で海外について考えを深めることができたと思う。
- ・目標に挙げたように、最終的なゴールは④段階としている。これを達成するには、実際に海外でのインターンシップを行うことで、大きく成長できると考えている。今後検討していきたい。

■成果が出た点

- ・これまで具体的に海外について考える機会がなかった生徒が多かったため、異文化理解や現在の世界情勢に興味を持ち、全体的には積極的に授業に参加できていた。また、授業を通して、もっと詳しく知りたいと思う生徒や就職後に海外での勤務を考える生徒、学業に前向きになった生徒が増えた。
- ・海外と日本を比較し、海外の魅力や日本の良さに改めて気づくことができたと感じる生徒が多かった。また、工業的な視点で、今自分たちが学んでいる座学や実習の知識・技術が海外でも活かされていることを知り、学習意欲の向上につながった。
- ・【7】単元を通した児童生徒の反応／変化でアンケート結果として示したように、ほとんどの生徒が③段階まで到達できたと感じている。また、④段階に足がかかりそうな生徒もあり、効果的

III. 授業実践報告書

異文化理解の学習を通して、自分自身が持っているイメージと現実のギャップを感じることで興味関心を深め、学習意欲の向上につなげたい思いで取り組んだ。イメージと実際のギャップは体験することによって強烈な印象に残る。実際に肌で感じ、目で見ること、つまり体験の重要性に気づき、今後の生活でも、何事もまずやってみる、積極的に参加するという姿勢を身につけさせたい。今回は機械科の生徒を対象に授業実践を行った。海外での日本企業の状況や工業化の様子、政府開発援助の例などを受け、日ごろ学んでいる座学や実習がさまざまな場面で活かされていることを知った。このことにより、学習意欲の向上につなげることができた。

■ 添付資料：

異文化を体験する 考えを深め、視野を広く	今日の内容 ① ゲーム ② タイ研修について ③ 修学旅行の前に	今日の内容 ① ゲーム ② タイ研修について ③ 修学旅行の前に	異文化を体験する まずは、トランプゲームで語をリフレッシュしましょう！	ルール① みんなで楽しくゲームを進めてください。 ・私語厳禁！ 声に出してしゃべらない。 ・ルールシートを読んで、ルールを覚える！
ルール② ・ゲームは順番で進みます。順番の入り方から、ゲームの進め方を学びます。 ・カード・トランプ・サイコロなどを使ってゲームを進めます。 ・ゲームのルールは、事前に説明書を読んでおく必要があります。 ・ゲームのルールは、事前に説明書を読んでおく必要があります。 ・ゲームのルールは、事前に説明書を読んでおく必要があります。 ・ゲームのルールは、事前に説明書を読んでおく必要があります。	トランプゲーム やってみましょう！ 私語厳禁	「何だか、を太切に」 ・ゲームの進め方に、どう気付きましたか？ ・ゲームの進め方を、どうしましたか？ ・ゲームの進め方を、どうしましたか？	今日の内容 ① ゲーム ② タイ研修について ③ 修学旅行の前に	今日の内容 ① ゲーム ② タイ研修について ③ 修学旅行の前に
今日の内容 ① ゲーム ② タイ研修について ③ 修学旅行の前に	タイ研修の内容 タイの文化・歴史・地理・社会・経済・政治・教育・宗教・芸術・スポーツ・ファッション・音楽・映画・テレビ・インターネット・その他 タイの文化・歴史・地理・社会・経済・政治・教育・宗教・芸術・スポーツ・ファッション・音楽・映画・テレビ・インターネット・その他	タイってどこにある？	タイの歴史 タイの歴史は、古くから知られており、その文化は、仏教・ヒンドゥー教・イスラム教・キリスト教・その他、多岐にわたります。 タイの歴史は、古くから知られており、その文化は、仏教・ヒンドゥー教・イスラム教・キリスト教・その他、多岐にわたります。	先遣区？先遣員？ 先遣区とは、先遣員が滞在する地域のことです。 先遣員とは、先遣区に滞在する職員のことです。
		先遣区？先遣員？ 先遣区とは、先遣員が滞在する地域のことです。 先遣員とは、先遣区に滞在する職員のことです。	今日の内容 ① ゲーム ② タイ研修について ③ 修学旅行の前に	今日の内容 ① ゲーム ② タイ研修について ③ 修学旅行の前に
修学旅行の前に タイについて タイは、東南アジアの国で、人口は約6500万人です。 タイは、東南アジアの国で、人口は約6500万人です。	修学旅行の前に タイ研修の内容 タイの文化・歴史・地理・社会・経済・政治・教育・宗教・芸術・スポーツ・ファッション・音楽・映画・テレビ・インターネット・その他 タイの文化・歴史・地理・社会・経済・政治・教育・宗教・芸術・スポーツ・ファッション・音楽・映画・テレビ・インターネット・その他	修学旅行の前に 「体験の重要性」に気付く 「体験の重要性」に気付く	今日の内容 ① ゲーム ② タイ研修について ③ 修学旅行の前に	今日の内容 ① ゲーム ② タイ研修について ③ 修学旅行の前に

(2)「台湾を知る。日本を知る。」スライド資料

台湾を知る。日本を知る。 握手を交われば、自分かわかる	目次 日本と台湾 工業先進という認識からの転換 フュールドリサーチ	目次 日本と台湾 工業先進という認識からの転換 フュールドリサーチ	台湾について【歴史】 1972年、日中共同声明	台湾について【日本との関係】 顔目といわれ、海外から日本への新橋定
台湾について【日本との関係】	台湾について【旅行で訪ねるところ】	台湾について【旅行で訪ねるところ】	台湾について【旅行で訪ねるところ】	台湾について【旅行で訪ねるところ】
台湾について【旅行で訪ねるところ】	台湾について【旅行で訪ねるところ】	台湾について【旅行で訪ねるところ】	目次 日本と台湾 工業先進という認識からの転換 フュールドリサーチ	目次 日本と台湾 工業先進という認識からの転換 フュールドリサーチ
台湾について【日本との関係】	日本は工業技術が誇り！ 技術力が高いので、 全世界で日本の企業が活躍している！ 企業は世界で戦っている！	ODA（政府開発援助） ODAは貧しい国の支援ではなく、 日本がいまの豊かさを維持するため という一面もある。	目次 日本と台湾 工業先進という認識からの転換 フュールドリサーチ	目次 日本と台湾 工業先進という認識からの転換 フュールドリサーチ
目次 日本と台湾 工業先進という認識からの転換 フュールドリサーチ	フュールドリサーチ 台湾で活躍する「日本を探せ！」 プロジェクトをやらせてみよう！	まとめ 海外に海外で行けるメリット 「体験の価値性」に気付く 実際に体験して感じたこととそこに おこなった活動に繋がってほしい！	変わりゆく世界情勢	変わりゆく世界情勢
国際理解学習の必要性	いざ、台湾へ！			

■参考資料：

- ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説工業編』教育出版、平成22年6月
- ・文部科学省『高等学校学習指導要領』教育出版、平成21年3月
- ・田中宏幸・三樹亮太「高等学校国語科における「想像力」を伸ばす学習指導の実践的研究－「ミロのヴィーナス」(清岡卓行)の授業を通して－」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第2部第62号 平成25年10月 pp.127-134
- ・相川充「高校生の海外修学旅行が訪問国に対するイメージと国際理解に及ぼす効果」『東京学芸大学紀要』総合教育科学系 第58号 平成21年2月 pp.81-90

Vivid English Expression I NEW EDITION

Lesson 21 I Have a Foreign Friend

徳 永 明 香
TOKUNAGA SAYAKA

県立黒石原支援学校（熊本県）

担当教科：英 語

●実践教科：英 語

●時 間 数：12 時間

●対象学年：3 年

●対象人数：2 名

実施概要

【1】単元のテーマ・目標

スペインの祭りに関する英文を聞き、異文化について理解し、自身の知っている外国の習慣について紹介することができる。

世界の一員として国内外の諸問題に関心を持ち、どう行動するかを考え、英語で述べることができる。

【2】単元の評価規準例

（ア）関心・意欲・態度

持続可能な開発目標（SDGs）の概念を理解し、関心を持った事柄について調べ、積極的に言語活動を行いコミュニケーションを図ろうとしている。

（イ）思考・判断・表現

聞いたり、読んだりした内容について、そこに示されている意見を他の意見と比較して共通点や相違点を整理したり、自分の考えをまとめたりすることができる。

（ウ）技 能

発表の仕方や発表のために必要な表現などを学習し、実際に活用することができる。

（エ）知識・理解

英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。

【3】単元設定の理由

【生徒観】

本学級は全日制普通科3年生の学級で男子1人、女子1人、計2人で、高等学校の教育課程に準じた教育を行っている。2人とも本校の中学部から進学しており、1人は基礎学力が身につけており、見通しが持てると自力で文法問題を解くことはできるが、興味関心に偏りがある。コミュニケーションが苦手で、表現活動では問題に対する好き嫌いがあり、代案を用意するなど配慮が必要である。もう1人は英語に苦手意識はあるが外国に興味があり、教師の支援があれば意見や意志を表現することができる。2人とも普段の学習態度は真面目であるが、お互いの考えを述べ

たり話し合ったりする活動は深まりにくいのが現状である。

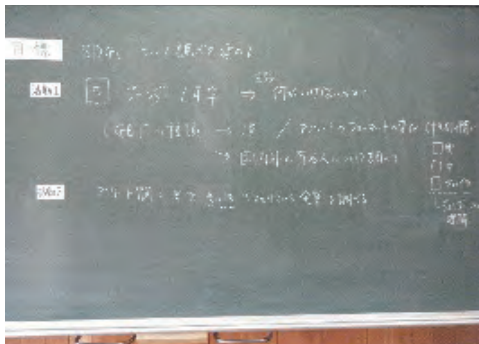
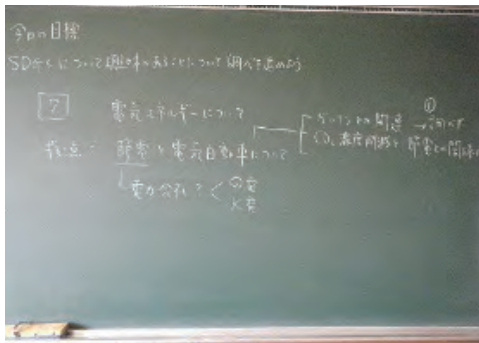
【教材観・指導観】

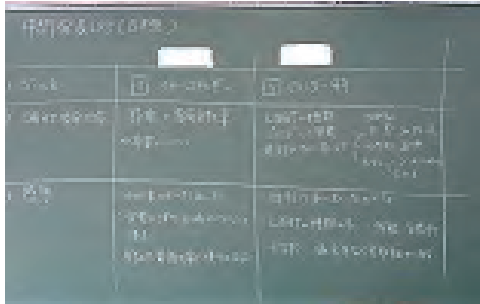
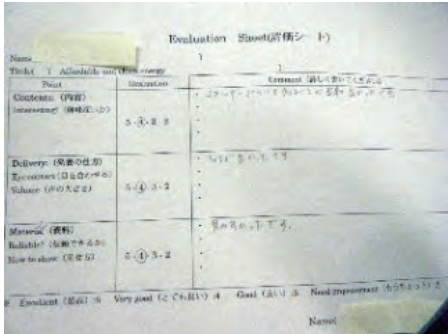
本校高等部Ⅰ課程の教育課程では、不登校や病気治療等で中学時代の基礎学力を補う観点から、1年次にコミュニケーション英語基礎、2年次にコミュニケーション英語Ⅰ、3年次に英語表現Ⅰを履修することになっている。英語表現Ⅰの教科書には課毎に表現活動があり、学習した例文や表現、Toolboxを参考にして自分の考えを英語で書く活動を学習活動のメインにしている。この学習を繰り返す中でお互いの意見を聞き、評価をすることに慣れてきて、意欲的に取り組んでいる。これまでに日本文化（L18）、ボランティア（L19）、地域の行事（L20）を学習し、今回、異文化（L22）の学習をするにあたり、授業者がタイでの研修で撮った写真や持続可能な開発目標（SDGs）についての学習を通して生徒が世界の諸問題について興味を示し、自分のこととして捉え、意見や考えを言えるようにしたい。

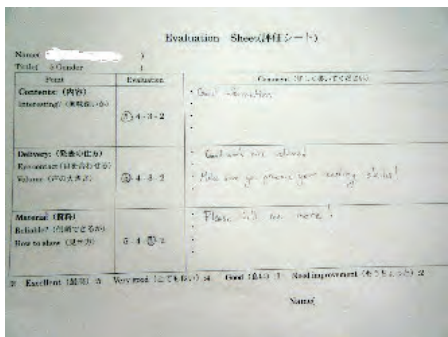
【4】展開計画（全8時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	Lesson 21	Oral introduction Listen and answer the question 文法項目確認 練習問題 	教科書 授業プリント スライド
2		Try it! 発表と評価	教科書 プリント
3	持続可能な開発目標（SDGs）について知ろう	教師海外研修報告（再） 興味のある持続可能な開発目標を探す 疑問点や調べたいことを考える 感想を発表する 	パワーポイント 「我々の世界を変革する持続可能な開発のためのアジェンダ」（国際連合広報局）

資料1 a, b : SDGs ロゴ

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
4 5 6	持続可能な開発目標 (SDGs) について調 べよう①②③	自分が決めたテーマについて調べる 考えをまとめて発表準備をする  写真 2 テーマと進め方 a  写真 3 テーマと進め方 b	インターネット パワーポイント 生徒が引用したサイト ジェンダー・平等 1) UD Style ホットとワク ワク + (プラス) vol.47 https://jp.toto.com/ud/style/plus/47.html 2) 「その他、だけでいいの？」性別欄 1 年半費 やしたサイトの答え withnews 2018 年 9 月 02 日 https://withnews.jp/article/ 3) オン・マイ・ウェイ！ NHK for school #11 偏見をなくすため にはどうすればいいん だろう？ www.nhk.or.jp/doutoku/onmyway/?das_id=D0005130171 エネルギーをみんなにそ してクリーンに 1) 節電社会にこそ電気 自動車を PHP オンライン衆知 PHP 研究所 shuchi.php.co.jp/article/361 2) 省エネルギー・新エ ネルギー 経済産業省・資源エネ ルギー庁 http://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/ エネナビ 九州電力 http://www.kyuden.co.jp/enenavi_index.html

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
7	中間発表をしよう	発表に向けて論点を整理する 発表をする／発表を聞く／意見・感想を伝える  写真4 進捗状況	パワーポイント
8	英語の発表資料を作ろう	伝えるための工夫点を考える わからない単語や表現は辞書を活用する	パワーポイント
9 本時	発表しよう1	例文を活用する 発表練習をする 発表する／発表を聞く／質疑応答をする 評価シートに沿って評価する 振り返り	発表用シート パワーポイント 評価シート
10	発表しよう2	例文を活用する 発表練習をする 発表する／発表を聞く／質疑応答をする  写真5 発表b 評価シートに沿って評価する  資料3a 評価シート：評価者（生徒）	発表用シート パワーポイント 評価シート

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
		 資料 3b 評価シート：教師 振り返り（個人・全体） まとめ	
11	持続可能な開発目標（SDGs）の活動を知ろう	動画を通して、生徒たちが調べたことも含めてどのような活動があるのかを知る 動画視聴 振り返り	YouTube - SDGs ピコ太郎×外務省（SDGs）～ PPAP - 「SDGs について考えはじめた人々」 国連広報センター（UNIC Tokyo） - 持続可能な開発とは？ 国連広報センター - SDGs NOW! 17Goals to Transform Our World mofachannel - エマ・ワトソン UN Women 親善大使 新しい HeForShe ウェブサイトを発表 国連広報センター - 石炭からクリーンエネルギーへ Greentvjapan

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
12	冬休みの宿題を発表しよう	それぞれのテーマに関連した新聞記事やニュースを持ち寄り、その内容を発表する  資料 4 新聞記事 質疑応答 振り返り	読売新聞 2018年（平成30年） 12月27日（木） 世界 in-depth 深層 入学願書の性別欄廃止 広がる news.yahoo.co.jp/ pickup/6309214 LGBTなどの性的マイ ノリティに関する取組 について www.city.kumamoto.jp /hpkiji/pub/detail. aspx?c_id=5&id

【5】 本時の展開

過程・時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (10分)	挨拶・出席確認・健康観察 フォトランゲージ	生徒の体調を確認する 生徒の自発的な発言を評価する	写真
展開 (35分)	1) 発表に向けて (4) 全体練習 (3) 個別練習 (3) 2) 発表 (5) 3) 質疑応答 (15) 4) 評価 (5)	発表、評価のポイントを確認する 発表シートで発音の難しい単語は 繰り返し練習する 相手の発表に注目させる 質問する・回答する 評価シートに記入させる	発表シート、評価 シート パワーポイント
まとめ (5分)	全体の振り返り、課題の確認、 次時予告	本時の活動を通して生徒の理解や 課題について確認する	評価シート

【授業実践の様子】

導入：フォトランゲージ

T: What do you see in the picture?

S1: Looks good

S1: Tasty

S2: Strawberry

S1: Straw wa cookie? (Are straws made from cookie?)

S2: (made of) Ki (wood)?

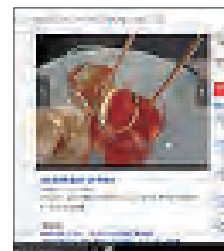


写真 6 ザ・キャピトルホテル東急東急
ホテルで出される木製ストロー

写真7 タイ、クロントイースラムの
住居の側溝

写真 8 発表 a

T: Yes. They do not return to nature such as soil.

2) 発表

The image shows a presentation slide titled "Gender". The slide is displayed within a software window titled "Screenshot - Windows". The slide content includes:

- Sex...body,biology
- Gender...social,culture
- What are differences between a female and a male?

The slide has a light blue background with a faint world map. The presentation software interface includes a sidebar on the left with thumbnails of other slides, a top status bar with "Screenshot - Windows" and "6/11/2012 1:58:51 PM", and a bottom taskbar showing the Windows Start button and several open applications.

[illegible][illegible]

資料 5d

T1: I know a prefecture in Japan deal with this. Let's look for it on the Internet next time.

4) 評価シートへの記入

5) 参観した教師からのコメント

T1: 「調べる視点が興味深い。発表の態度が意欲的だった。」

T3: 「(発表の終わりに来たので、生徒がスライドを見せた。) 興味があるテーマなので、発表を聞きたかった。」

6) 振り返り (発表生徒から、次回発表生徒から)

S1: 緊張した。自分は LGBT のどれに入るのか。"English is difficult."

S2: 発表の見通しが持てた。でも、誰にも見に来てほしくない (笑)

(生徒の評価)

内容: 住民票にどう書く? 近くにいるかもしれない

発表の仕方: 目を合わせるひまがない 英語で言わやんしよく聞こえる

資料: 写真資料があるのは良い

(ALT の評価)

Contents: Good information

Delivery: Nice volume Be careful of your pronunciation

Material: Please tell me more!

(授業者の評価)

Contents: Nice viewpoints

Delivery: Positive attitude

Material: Interesting. Finish 4th slide

(副担任の評価)

内容: SEX と GENDER の違いは興味深い。

SNS の性別欄に「わからない」「無回答」など世の中の意識が高いことがわかった。

発表の仕方: 伝える人の方を見て発表できた。

資料: スライドに写真やキーワードがあり、見せ方の評価として 4 をつけた。



写真 9 ALT と談笑

A photograph of a handwritten evaluation sheet for a student. The sheet is titled "Evaluation Sheet (生徒シート)" and contains handwritten feedback in Japanese. The feedback is organized into sections for Contents, Delivery, and Material, with specific comments and ratings.

資料 6a: 評価シート (生徒)

A photograph of a handwritten evaluation sheet for an ALT. The sheet is titled "Evaluation Sheet (ALTシート)" and contains handwritten feedback in Japanese. The feedback is organized into sections for Contents, Delivery, and Material, with specific comments and ratings.

資料 6b: 評価シート (ALT)

A photograph of a handwritten evaluation sheet for a teacher. The sheet is titled "Evaluation Sheet (授業者シート)" and contains handwritten feedback in Japanese. The feedback is organized into sections for Contents, Delivery, and Material, with specific comments and ratings.

資料 6c: 評価シート (授業者)

A photograph of a handwritten evaluation sheet for a co-teacher. The sheet is titled "Evaluation Sheet (副担任シート)" and contains handwritten feedback in Japanese. The feedback is organized into sections for Contents, Delivery, and Material, with specific comments and ratings.

資料 6d: 評価シート (副担任)

【6】本時の振り返り

【フォトランゲージ】

その週に教師が気になるネットニュースの写真を提示してフリートークをしている。本時の写真を出すに当たり、教師海外研修時の写真（過去の授業で提示）をきっかけにしたいと考えたが、生徒の印象に残っていたようで、活発に意見が出た。

【発表】

英語には苦手意識が強いので、毎回例文を参考に空所を埋めるような形で文章を完成させる等、ハードルを低くしている。今回は調べたことを日本語で発表し、その後 ALT の訪問日に合わせて英語で発表する計画を立てた。また、パワーポイントを使い、少ない文字数で必要なことを相手に伝えることも取り入れた。日本語の資料では、説明が中心となりわかりにくかったので、英語で発表するときには条件を提示し、文ではなく単語、グラフなどの視覚的資料を使うことを確認した。それにより資料はシンプルになり、説明することへの負担も軽減できたと思う。

【質疑応答】

生徒には何か1つ質問を考えておくように事前に伝えておき、まず教師が質問をしてそのやりとりを見せてから、生徒に行わせるようにした。日本語の発表後で相手の発表内容を知っているので、質問もしやすく答える方も準備ができていた。「自分が LGBT であるとして、役所にどう届けばいいのかな？」の問いには「『私はどちらにも属しません、だから、記入しません。』と言います。」と答えていた。国内での LGBT に対応についても、冬休みの宿題などで更に学びを深めたい。

【評価】

評価シートを作成し、本時の発表前に評価方法について確認をしていたので、特に問題はなかった。コメントも英語・日本語 OK にしたため、生徒は日本語でコメントをしていた。本時は ALT の他に副担任（数学担当）にも参観を依頼した。副担任は途中からではあったが参観したので、見た部分について評価をもらうことができた。生徒間の評価は、今日は一人が発表のため、見ている生徒が発表生徒の評価を行った。

【振り返り】

発表した生徒の自己評価は "English is difficult!" であった。英語を苦手とする生徒ではあったが、ALT の質問に答えられないときは「先生、英語でどう言えばいいですか？」と尋ねて答えようとする姿勢が見られた。一方、今日評価をした生徒は、1 時間の流れがわかり次時の見通しが持てたようであった。

【7】単元を通した児童生徒の反応 / 変化

ジェンダーを調べた生徒：

- English is difficult!
- 自分はこれまで女性だと疑わなかったが、調べてみて LGBT の可能性についても考えるようになった。

エネルギーについて調べた生徒：

- 国が再生エネルギーについて進めるからにはそれなりのメリットがあることがわかった。
- 英訳は大変だ。自動で翻訳してくれないかな。

単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲について

「なぜ」という問に答えるのが苦手だった生徒が、課題についての知識を増やすことでその周辺情報を得、視野が広がった。

途上国・異文化への意識の変容について

■授業前

- 1) 位置 地球儀で赤道付近を探す生徒、地図帳のほうが見やすい生徒
- 2) 知識 ASEAN、経度3つ分（時差は3時間くらい）、暑い、カレー、少年サッカーチーム洞窟からの救出、観光地、工業国
- 3) 交流授業で実施する日本の昔遊びについて
折り紙・鶴、紙風船、恐竜。従来の物も良いが3Dが いいのでは？
けん玉…できたら楽しい。
手遊び…あやとり、影絵、ゆびずもう、足し算、アルプスいちまんじゃく、CCレモン
今回の研修参加者が実施する交流授業についての印象と私が担当する手遊びについて様々な具体例が出され、大変参考になった。

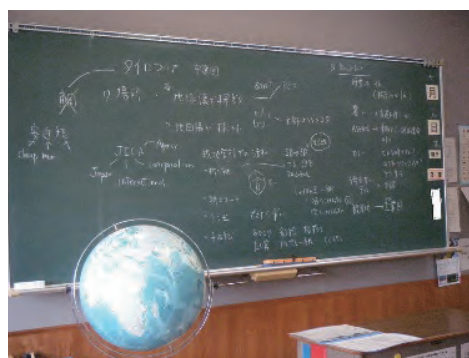


写真10 事前学習の板書

■授業後：アンケート実施（生徒感想）

1. 途上国や異文化に対してのイメージ
学習前：
・途上国 ものが足りない。荒れてる。
・異文化 違うのでけんかする。
学習後：

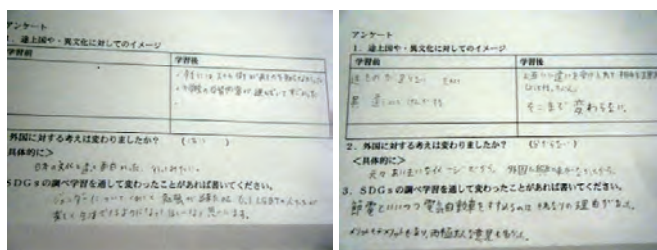
- ・タイにはスラムがあることを知らなかった。
- ・小学校の学習内容が進んでいてすごかった。
- ・お互いに違いを受け入れて、相手を理解しようとする。たぶん。
- ・そこまで変わらない。

2. 外国に対する考えは変わりましたか？

- ・はい→（具体的に）日本の文化と違って面白かった。行ってみたい。
- ・わからない→（具体的に）元々あいまいなイメージだから。外国に興味なかったから。

3. SDGsの調べ学習を通して変わったことがあれば書いてください。

- ・ジェンダーについてくわしく勉強が出来たのと同じく LGBTの人たちが楽しく生活できるようになってほしいと思います。
- ・節電といいつつ電気自動車をすすめるのはそれなりの理由があった。



資料7a, 7b 生徒感想

- ・メリットもデメリットもあり、両極端な意見も多かった。

自己評価

■苦勞した点

生徒が興味を持ったことについて調べ学習をする際にどのような資料を選定するか確認し、状況に応じてより効果的な資料を紹介するタイミングが難しかった。

エネルギーについて調べていた生徒の電気自動車に関する資料が2011年と古かったため、中間発表後に新しい情報を紹介して違いがないかを確認するよう提案した。また、生徒の立てた仮説に関連する資料が見つからなかったため、授業者の持つ情報（電気自動車を使用してわかることや、家庭用蓄電池の訪問販売で知り得た情報）も交えて生徒とやりとりをしたが、生徒の問題解決には至らなかった。

ジェンダーについて調べた生徒は、興味のある定義やLGBTの分類から誰でも使えるトイレなど国内のLGBT事情について調べを進めることができたが、平等について考えることができなかった。また、海外事情については補足の意味で動画を見せたが、英語音声の日本語字幕で途中から居眠りしていた。生徒の興味や実態に合わせた教材の選定や、視聴の時間帯（食後は避ける）にも配慮が必要であった。

■改善点

生徒数が少なくても、お互いの興味関心や調べ学習の成果を共有し、学ぶ機会はあるが高等部内での共通課題とした学習計画ができれば、更に深い学びにつながる。

同じ教科や他教科の教師と教材について情報の共有を行い、それぞれの専門性を活用し、教育のする内容の質を高めていきたい。

■成果が出た点

生徒が興味を持ったゴールについて自発的に調べ、資料を選定することができていた。

日本語の発表から英語の発表につなげることで辞書活動が活発になった。

ALTを給食に誘うことができるようになった。

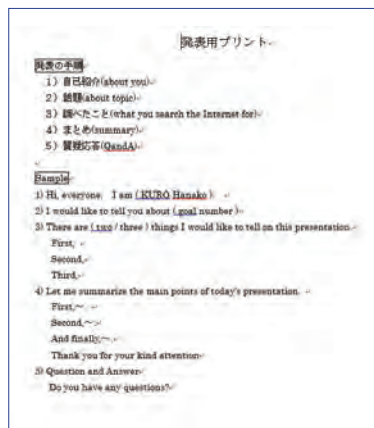
評価シートを交換する時に、「読みづらいかもしれない」と相手を思いやる発言が自然に出ていた。

■備考

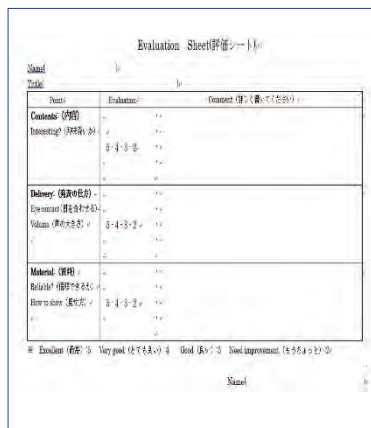
SDGsの学習を通して、他教科の教師が興味を持ってくれるようになり、それぞれの教科に関連する項目について情報を共有することが始まりつつある。今後は各教科の領域を効果的に活用し、継続的に授業実践をしたい。

添付資料・参考資料

■ 添付資料：



資料2：発表用プリント



資料3：評価シート



資料7：生徒感想

■ 参考資料：

教師用

<書籍>

未来を変える目標 SDGs アイデアブック Think the Earth (著)

<インターネット>

SDGs のロゴ 国連広報センター

経済産業省・資源エネルギー庁 www.enecho.meti.go.jp/

九州電力ホームページ エネナビ www.kyuden.co.jp/

【2018 年最新情報】電気自動車って何？メリット・デメリットと各メーカー車種一覧

panda-usedcar.com/ 電気自動車 /

クローズアップ現代 広がる“遺品再生”ビジネス www.nhk.or.jp/gendai/articles/4198/ -

ホテルが木製ストローを導入 共同通信 (12 月 11 日 (火) 10:45 配信)

<フリーペーパー>

Galileo ECO Life Magazine Smart Life Smart Life 06 (2018.May) 株) ガリレオコーポレーション

<YouTube>

ピコ太郎×外務省 (SDG s) ~ PPAP mofachannel

「SDGs について考えはじめた人々」国連広報センター (UNIC Tokyo)

「SDGs のうた」未来人 feat. SDGs オールスターズ 島ぜんぶでおーきな祭

持続可能な開発とは？国連広報センター

SDGs NOW! 17Goals to Transform Our World mofachannel

エマ・ワトソン UN Women 親善大使 新しい HeForShe ウェブサイトを発表 国連広報センター

石炭からクリーンエネルギーへ greentvjapan

生徒用

<書籍>

未来を変える目標 SDGs アイデアブック Think the Earth (著)

<インターネット>

ジェンダー：

- 1) UD Style ホットワクワク+ (プラス) vol.47 <https://jp.toto.com/ud/style/plus/47.htm>
- 2) 「その他、だけでいいの？」性別欄1年半費やしたサイトの答え withnews 2018年9月02日
<https://withnews.jp/article/>
- 3) オン・マイ・ウェイ！NHK for school #11 偏見をなくすためにはどうすればいいんだろう？
www.nhk.or.jp/doutoku/onmyway/?das_id=D0005130171
- 4) 入学願書の性別欄廃止広がる（朝日新聞デジタル）news.yahoo.co.jp/pickup/6309214
- 5) LGBTなどの性的マイノリティに関する取組について（熊本市ホームページ）
www.city.kumamoto.jp/hpkiji/pub/detail.aspx?c_id=5&id

クリーンエネルギー：

- 1) 節電社会にこそ電気自動車を P H P オンライン衆知 P H P 研究所
<https://shuchi.php.co.jp/article/361>
- 2) 省エネルギー・新エネルギー経済産業省・資源エネルギー庁
http://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/
- 3) エネナビ 九州電力 http://www.kyuden.co.jp/enenavi_index.html

おわりに

今年は「グローバルな人材を共に育む」とテーマを一新し、数年続いていたアフリカ地域からタイへと研修地を移した研修となりました。

まずは、学校現場の多忙さや様々な制約を抱えながらも、熱意と高い志を携えて研修に参加し、その経験を素晴らしい実践としてフィードバックされた4名の先生方に対して、敬意を表します。

1954年のコロンボプラン以降始まった対タイ国への国際協力は、その後も関係性を深化しながら続いています。いまや中進国と言われるタイ。その国を今回の研修派遣先とした意味は何なのか？ 私たちは、なぜ、タイに行くのか？ …おそらく、幾度となく繰り返されただろうこの問いに対しての各自なりの答えが、それぞれの報告の中に反映されていると感じました。国内における貧国の格差の広がり、地球規模の課題に対して果たすべき役割、現場を支える地域力や人間力、「開発」が持つ意味の多様さと目指すべき社会の方向性・・・タイの国際協力の現場を通して見えてきたものは、自ずとこの日本が抱える課題とも重なることに気づきます。ある方面では、私たちがタイから学ぶべきことも多く、まさに、国際協力とは一方通行ではないことを、現地で痛感されてきたことでしょう。

さて、「グローバルな人材育成」という教育目標は、既に、文部科学省によって初等中等教育の重要テーマとして示されていますが、ここで、私はこの研修のテーマが「共に育む」ことであったことに着目したいと思います。つまり、人材育成も国際協力と同様、一方通行ではないこと、他者（他国）に対する敬意と誠意に下支えされた関係性の中で共に育ちあうプロセスの大切さをこのテーマは示しているといえるでしょう。これは、同時に、大人と子どもの関係性へも言及できることだと感じます。将来の予測が困難で複雑かつ変化の激しい現代社会において、「どのような社会や世界を私たちは望むのか？」という問いに対して真摯に考え続けることは、すべての大人の果たすべき責任です。そして、それは大人だけの問題ではなく、これからの時代や社会を生きていく子どもたちと共に考え、試行し、検討し、批判し、また考え続けていくという姿勢と関係性が、今後はより大切になっていくのではないのでしょうか。この研修が、先生方がこれからも出会い続けていくだろう多くの人々（もちろん、子どもを含む）との関係性をよりよきものへと変化させていくきっかけとなっていくとしたら、研修の一端に関わった一人の人間として、こんなにうれしいことはありません。

最後に、この研修を通して培われた思考と実践、視野の拡大、なによりも人間は常に成長を続けていけるという実感が、一人一人の糧となることを願いつつ、今後ますますのご活躍を心よりお祈りしております。

2018（平成30）年度 教師海外研修 ファシリテーター
エデュケーション・サポートセンター 松本 亜樹

